

日本財団母乳バンク
「母乳バンク」「ドナーミルク」
認知度調査結果

2026年6月



調査概要・回答者プロフィール

調査概要・回答者プロフィール

調査概要

調査対象：日本全国の17歳以上の男女10,000人

※各年齢層／性別×年代×居住エリアで人口構成比に基づき割り付ける。

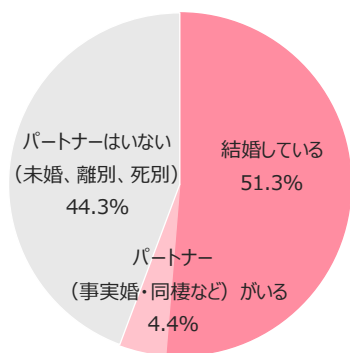
実施期間：2026年1月19日～1月28日

調査手法：インターネット調査

		計 (人)	1	2	3	4	5	6	7	8
			北海道・東北	関東	北陸・甲信越	東海	近畿	中国	四国	九州・沖縄
計 (人)		10,000	1,132	3,463	638	1,169	1,619	573	293	1,113
1	男性、17～19歳	170	18	57	11	21	29	10	5	19
2	男性、20～29歳	562	56	216	32	67	91	30	13	57
3	男性、30～39歳	662	69	248	39	80	101	36	17	72
4	男性、40～49歳	876	92	324	54	106	138	48	24	90
5	男性、50～59歳	792	86	292	50	95	126	42	21	80
6	男性、60～69歳	733	95	235	51	84	109	44	24	91
7	男性、70～89歳	1,064	126	343	75	127	175	66	35	117
8	女性、17～19歳	161	17	55	10	19	28	9	4	19
9	女性、20～29歳	546	52	210	29	62	94	28	13	58
10	女性、30～39歳	643	68	235	37	73	104	35	17	74
11	女性、40～49歳	855	90	308	52	99	143	47	24	92
12	女性、50～59歳	789	89	274	49	91	133	43	23	87
13	女性、60～69歳	768	102	236	53	87	119	47	26	98
14	女性、70～89歳	1,379	172	430	96	158	229	88	47	159

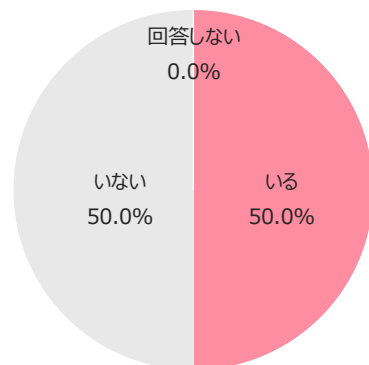
回答者プロフィール

パートナー有無



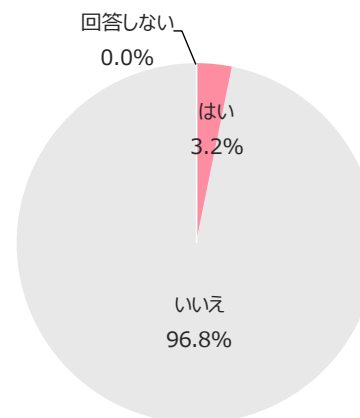
(n=10,000)

お子様有無



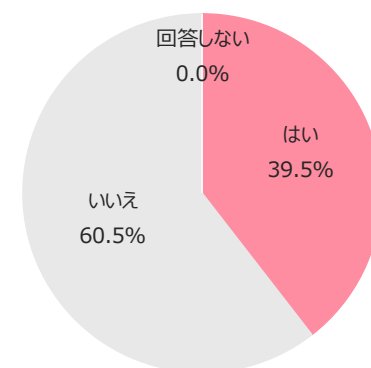
(n=10,000)

妊娠の有無



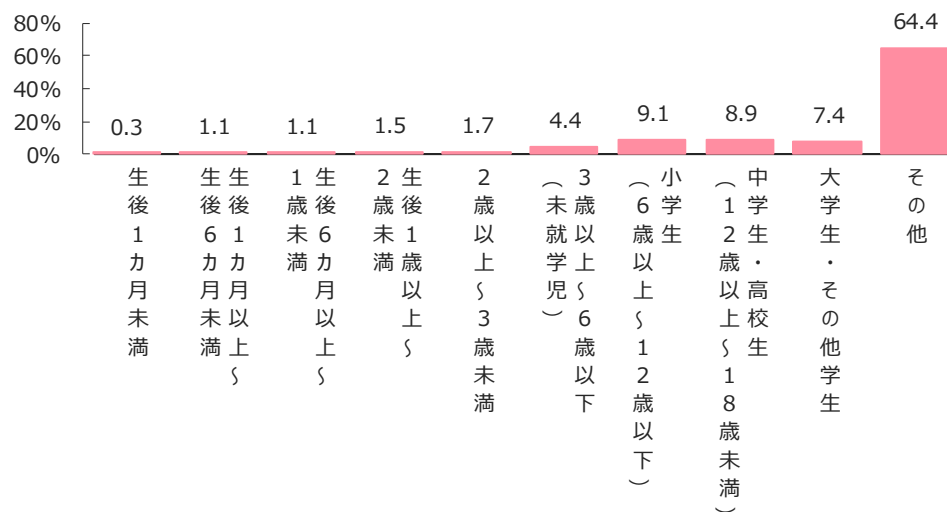
(n=4,879)

授乳中かどうか



(n=162)

一番下のお子様の年齢

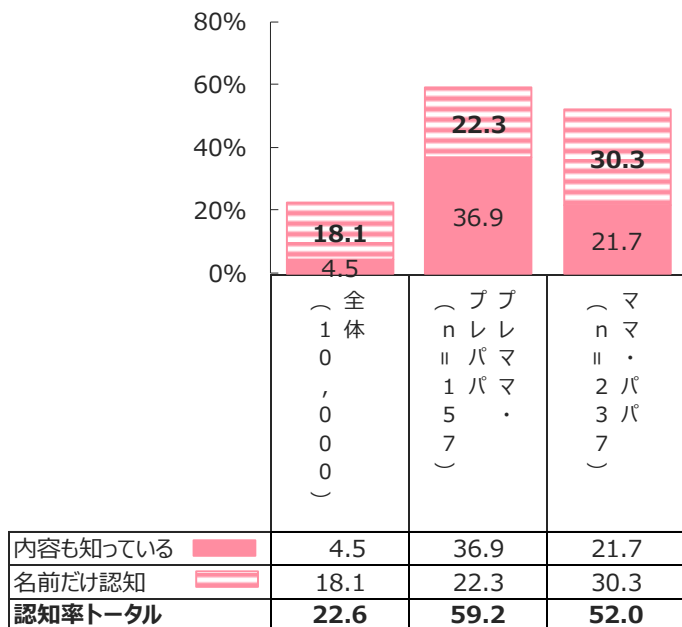


(n=5,002)

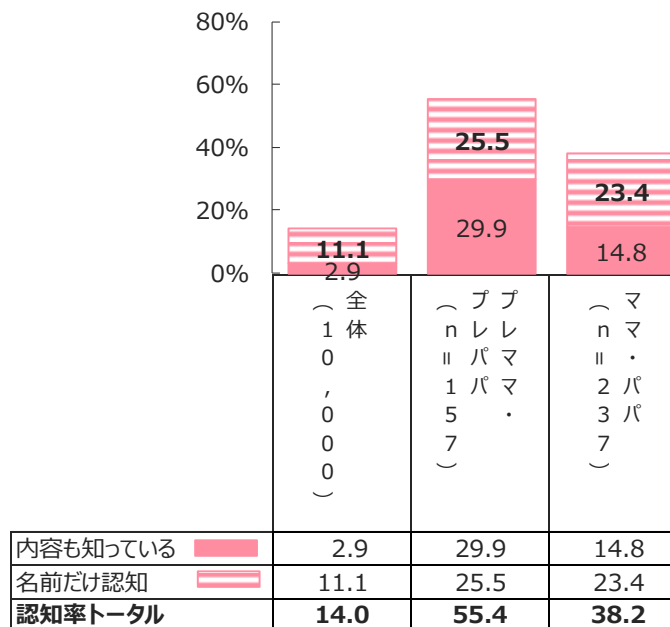
認知度調査サマリー

- 全体の認知率は「母乳バンク」22.6%、「ドナーミルク」14.0%と低水準に留まる。特に「内容まで知っている」層は全体で見ると母乳バンクで4.5%、ドナーミルクで2.9%に過ぎない。一般層の理解度は低い水準にある。
- 一方で、出産を控えた【プレママ・プレパパ】は「母乳バンク」59.2%／「ドナーミルク」55.4%、【ママ・パパ】も52.0%／38.2%と認知が高く、全体平均を大きく上回る。
- 関心の高い当事者層と、それ以外の層（親世代など）との間で、知識レベルの断絶（二極化）が顕著である。情報の非対称性が、後の合意形成の妨げとなるリスクが想定される。

母乳バンクの認知率

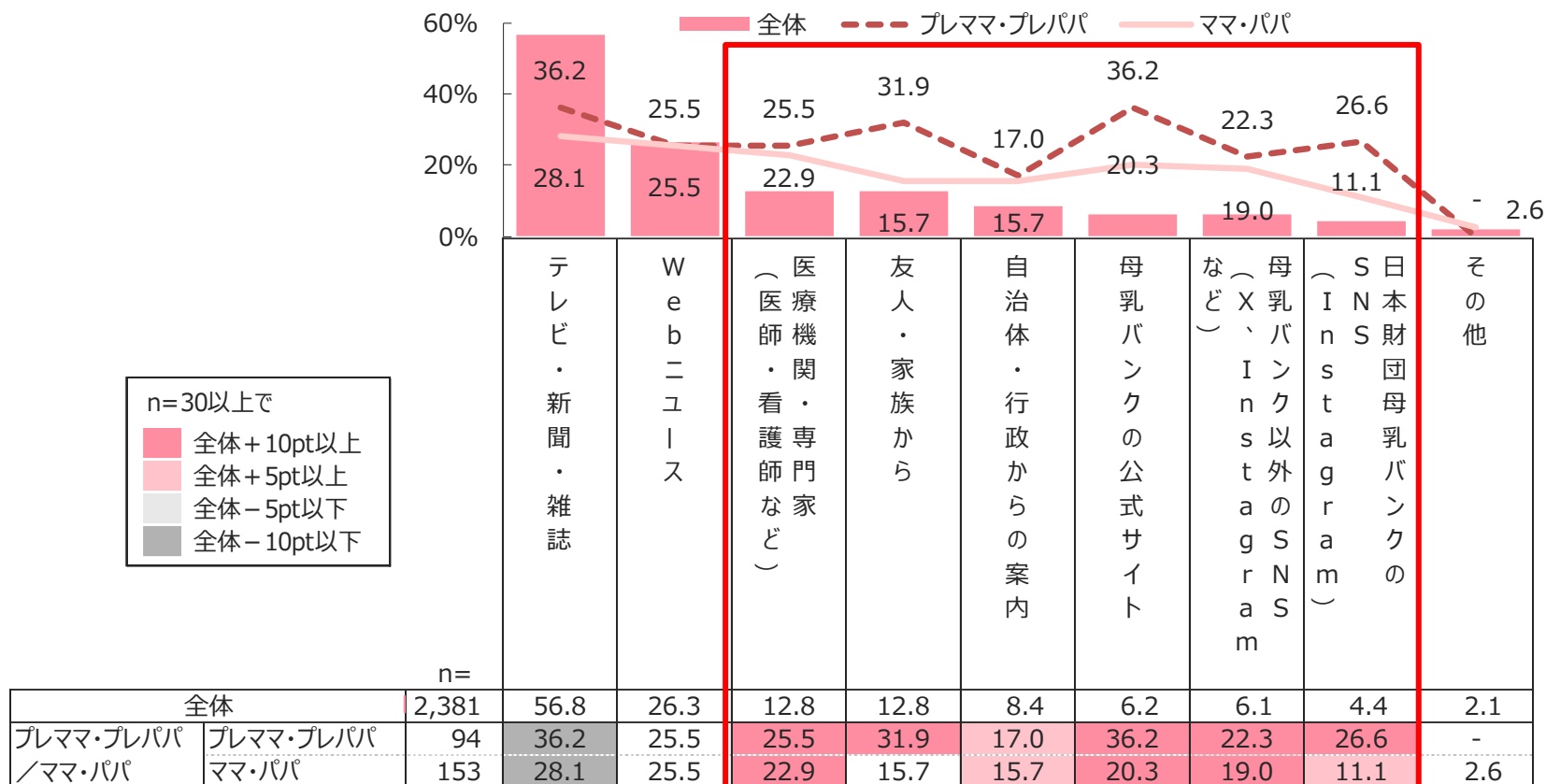


ドナーミルクの認知率



Q1 あなたは「母乳バンク」や「ドナーミルク」という言葉や仕組みをご存知でしたか。【全体ベース】 (SA)

- 全体の56.8%がテレビ・新聞等のマスメディア経由で情報を得ている。
- 【プレママ・プレパパ】は「公式サイト（36.2%）」や「母乳バンク以外のSNS（22.3%）」を活用し、能動的に情報を取得している。



※全体の値を基準に降順並び替え

Q2 あなたは『母乳バンク』や『ドナーミルク』という言葉や仕組みをどちらでお知りになりましたか。(MA)

- 献血 (89.2%) や骨髄バンク (85.1%) といった国民的インフラと比較すると、母乳バンク (22.6%) は遅れをとっている。プレママ・プレパパ/ママ・パパでは、母乳バンクの認知は臍帯バンク・臍帯血バンクより高い数値となっている。

全体

	n=	認知 (%)			認知	非認知
		内容まで知っている	言葉だけ知っている	聞いたことがない/知らない		
母乳バンク	10,000	4.5	18.1	77.4	22.6	77.4
ドナーミルク	10,000	2.9	11.1	86.0	14.1	86.0
献血	10,000	66.0	23.2	10.8	89.2	10.8
骨髄バンク	10,000	35.9	49.2	14.9	85.1	14.9
臍帯バンク	10,000	8.0	27.8	64.2	35.8	64.2
臍帯血バンク	10,000	10.5	30.5	59.0	41.0	59.0
臓器提供 (意思表示を含む)	10,000	41.2	41.4	17.4	82.6	17.4
アイバンク (角膜提供)	10,000	23.3	38.7	38.0	62.0	38.0

プレママ・プレパパ/ママ・パパ

	n=	認知 (%)			認知	非認知
		内容まで知っている	言葉だけ知っている	聞いたことがない/知らない		
母乳バンク	394	26.4	29.4	44.2	55.8	44.2
ドナーミルク	394	17.5	22.3	60.2	39.8	60.2
献血	394	54.1	27.4	18.5	81.5	18.5
骨髄バンク	394	34.0	40.9	25.1	74.9	25.1
臍帯バンク	394	17.3	29.7	53.0	47.0	53.0
臍帯血バンク	394	20.6	31.7	47.7	52.3	47.7
臓器提供 (意思表示を含む)	394	39.1	35.0	25.9	74.1	25.9
アイバンク (角膜提供)	394	18.5	26.9	54.6	45.4	54.6

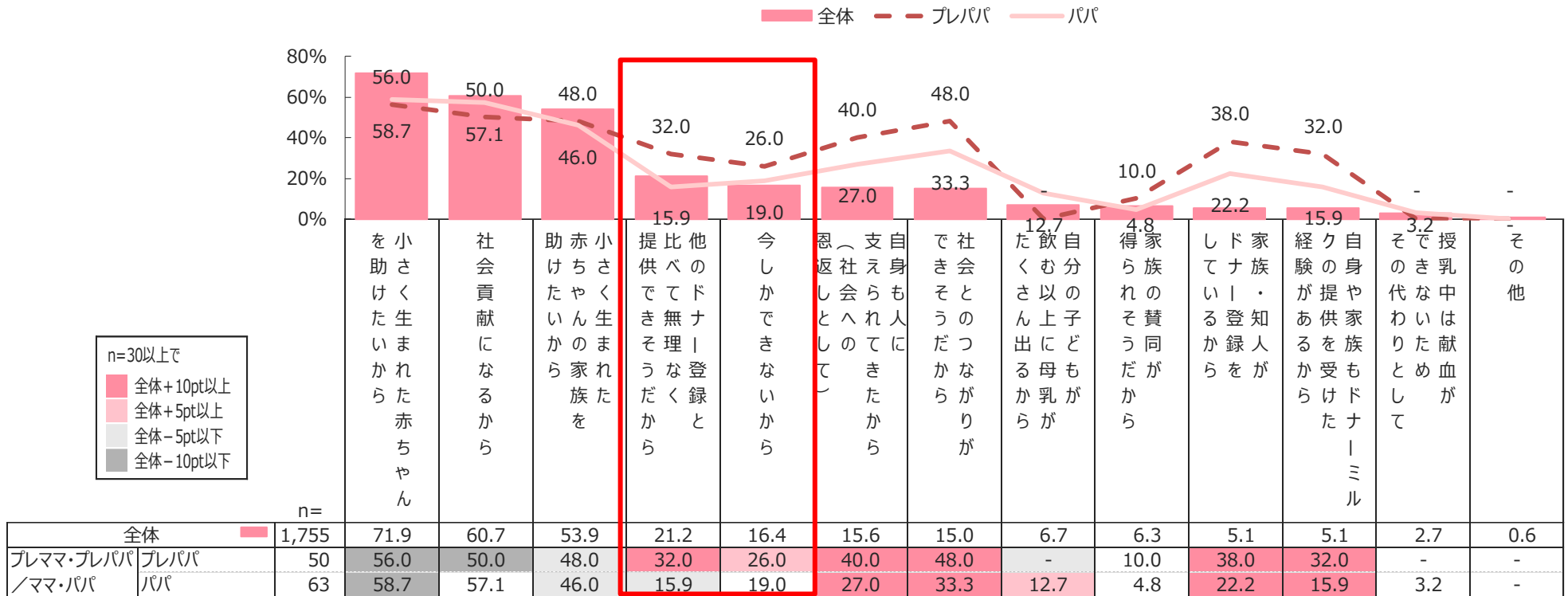
Q5 【GT一覧】以下の医療・ドナー制度について、あなたはどの程度ご存知ですか。(SA)

- ドナー登録意向は、全体で「ぜひ登録したい（してほしい）」が5.2%、「やや登録したい（してほしい）」が12.5%（計17.7%）に留まり、約半数（49.8%）が「どちらともいえない」と回答している。
- 【プレママ・プレパパ】においては、推奨意向が計53.5%（ぜひ28.9%+やや24.6%）と過半数に達し、全体を大きく上回る高いポテンシャルを示している。
- 一方で、子育て層である【ママ・パパ】では計30.5%（ぜひ12.5%+やや18.0%）に低下している。【プレママ・プレパパ】の高い意欲が、産後の多忙さや身体的負担といった現実的なハードルに直面し、【ママ・パパ】の段階で低下してしまう構造がうかがえる。
- 全体としては判断材料が不足している「浮動層（どちらともいえない）」が非常に多い。

		n=	登録意向 (%)				
			ぜひ登録したい (してほしい)	やや登録したい (してほしい)	どちらともいえない	あまり登録したくない (してほしくない)	まったく登録したくない (してほしくない)
全体		10,000	5.2	12.5	49.8	10.2	22.2
プレママ・プレパパ / ママ・パパ	プレママ・プレパパ	157	28.9	24.6		33.4	11.8
	ママ・パパ	237	12.5	18.0	43.4	10.3	15.8

Q8 もしあなたが（あるいはあなたのパートナーが）授乳期の女性で、母乳を提供できる状況だったとしたら、「母乳ドナー」として登録したい（してほしい）と思いますか。(SA)

- 全体では、ドナー登録推奨の理由の一番として「小さく生まれた赤ちゃんを助きたい (71.9%) 」という純粋な利他性が最大である。
- 【プレパパ・パパ】においては、「無理なく提供できそう (32.0%) 」 「今しかできないから (26.0%) 」という現実的な実行可能性や期間限定性も強い動機となっている。

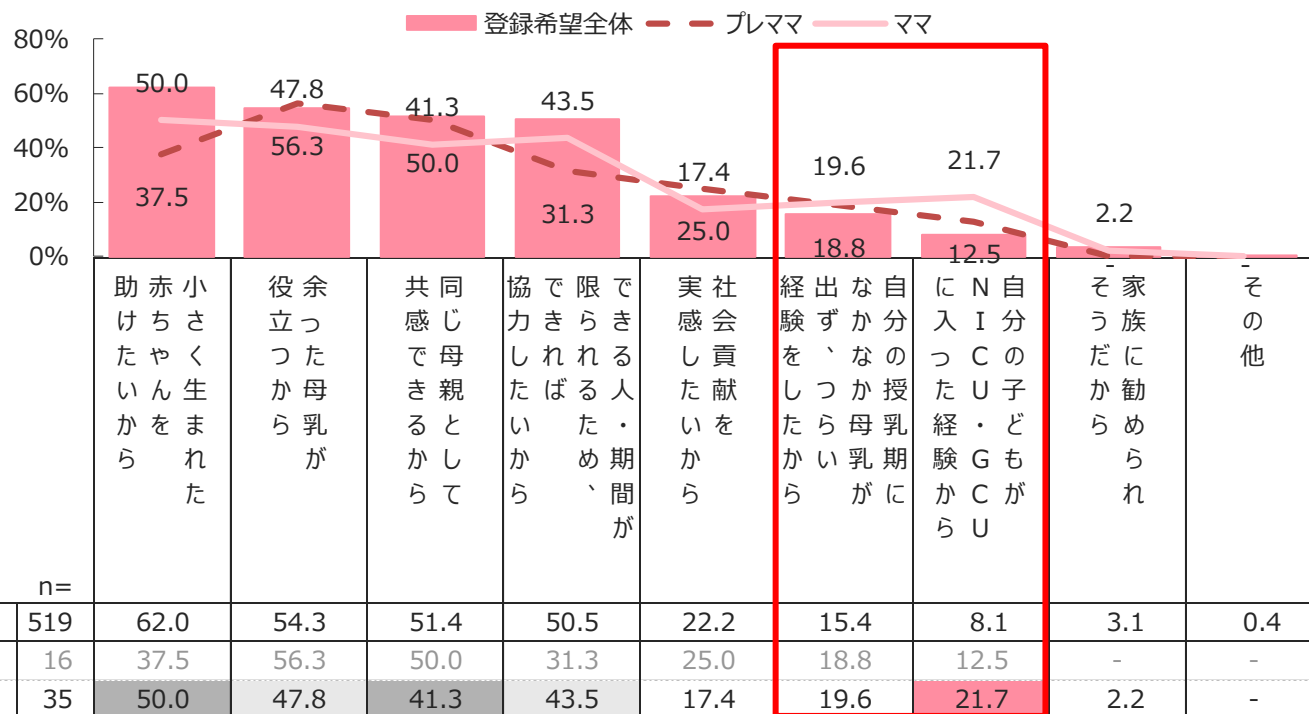


※全体の値を基準に降順並び替え

Q9 先ほどの設問で「ぜひ登録したい (してほしい) 」 / 「やや登録したい (してほしい) 」と回答されました。その理由をお知らせください。(MA)

- 「小さく生まれた赤ちゃんを助けたい (62.0%)」などの高い利他心や共感が主な登録動機となっている。
- 自身の不安や過去の経験といった「当事者意識」に基づく動機が強い。特に【ママ】では「子どもがNICU・GCUに入った経験 (21.7%)」が全体を大きく上回る。参考値ではあるが、【プレママ】は「余った母乳の活用」がトップになるなど、本人の現状意識が登録のドライバーとなっていることが示唆される。

※ただし、プレママのサンプル数 (n数) は少数のため、属性別の数値はあくまで参考値としての留意が必要

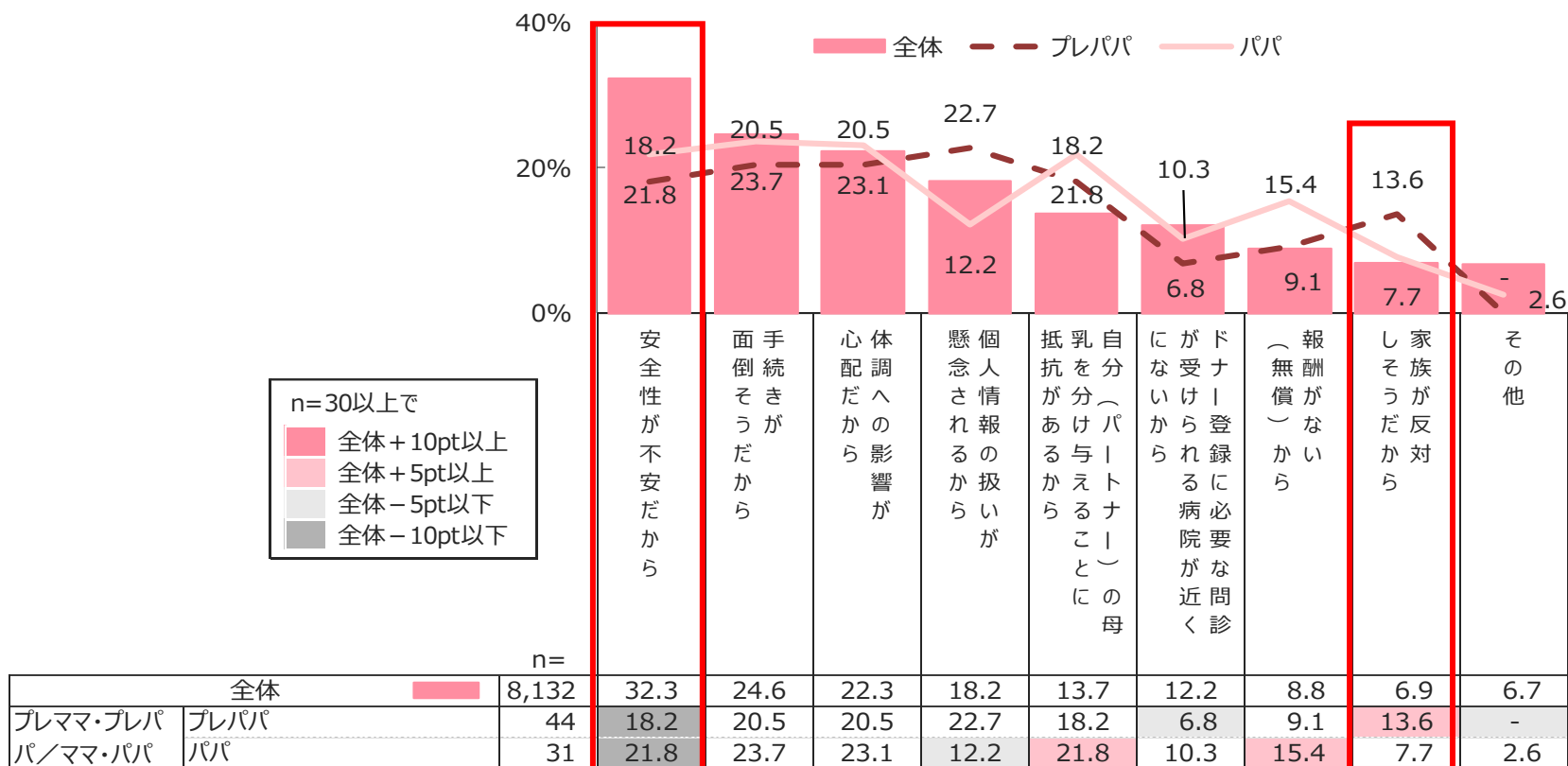


※n=30未満は参考値のため灰色。

※全体の値を基準に降順並び替え ※男性は回答対象外。

Q9 先ほどの設問で「ぜひ登録したい (してほしい)」 / 「やや登録したい (してほしい)」と回答されました。その理由をお知らせください。(MA)

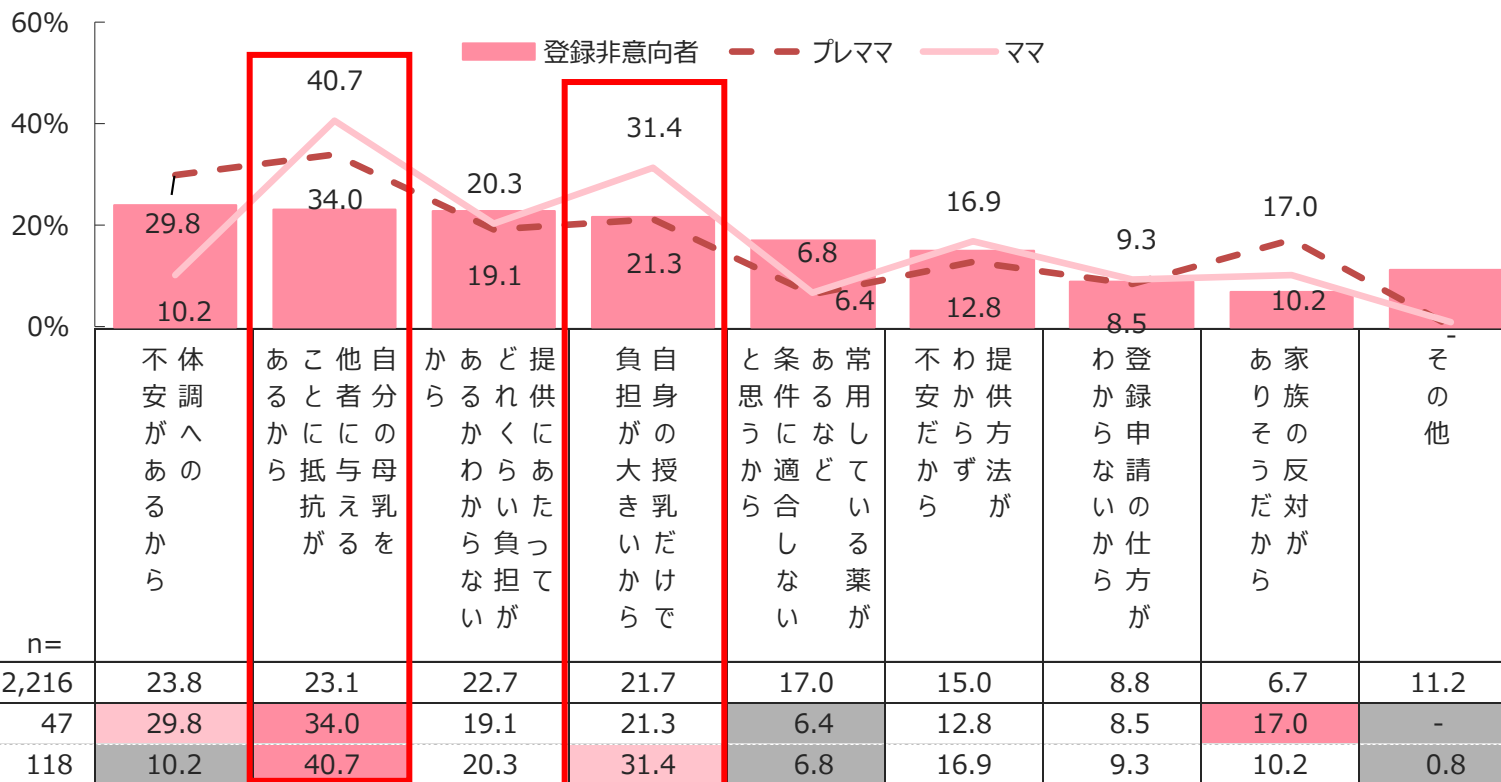
- 全体の非登録の主因は「安全性・衛生面への不安 (32.3%)」である。
- 【プレパパ】では安全性の懸念は低くなるが、代わりに「家族が反対しそう (13.6%)」という「家族の壁」が浮上する。



※全体の値を基準に降順並び替え

Q10 先ほどの設問で「どちらともいえない」 / 「あまり登録したくない (してほしくない)」 / 「まったく登録したくない (してほしくない)」と回答されました。その理由をお知らせください。(MA)

- 【プレママ・ママ】では「他人に自分の母乳を与えることへの抵抗感」が共通して最大のハードル（プレママ34.0%、ママ40.7%）となっている。
- 出産を控えた【プレママ】では、自身の「体への不安（29.8%）」に加え、「家族の反対がありそう（17.0%）」という周囲の懸念が浮上する。



n=30以上で
 ■ 全体+10pt以上
 ■ 全体+5pt以上
 ■ 全体-5pt以下
 ■ 全体-10pt以下

※n=30未満は参考値のため灰色。 ※全体の値を基準に降順並び替え ※男性は回答対象外。

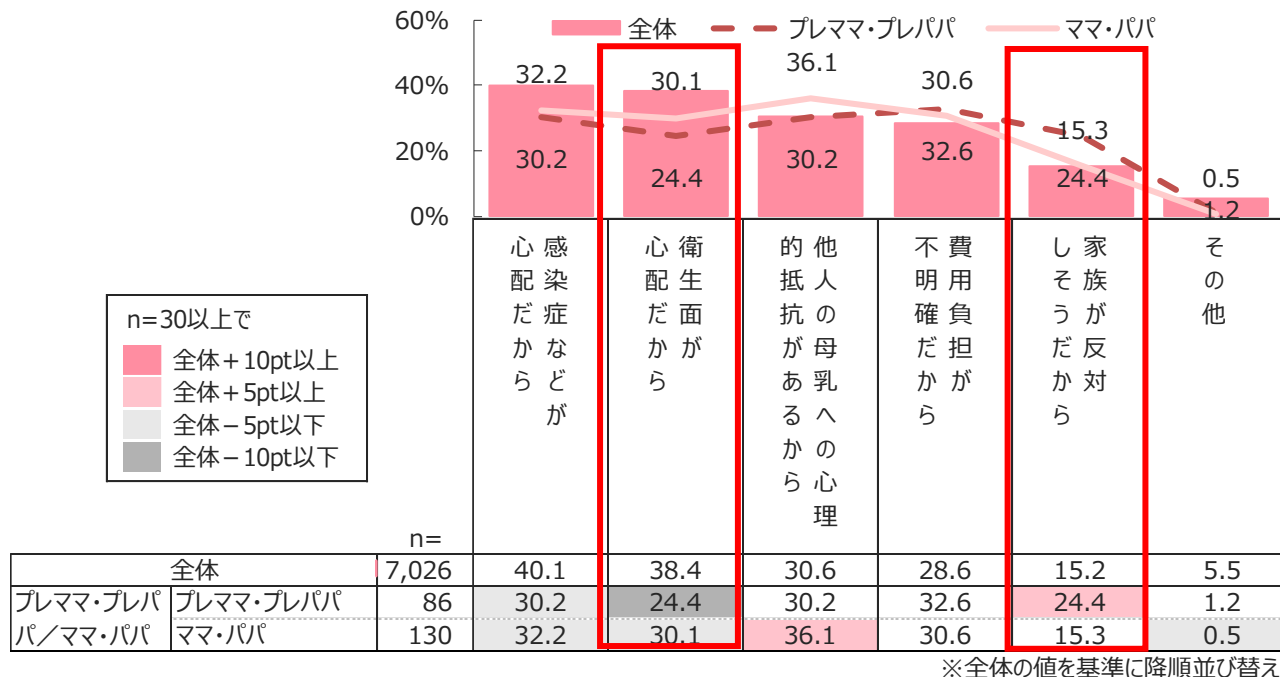
Q19 先ほどの設問で「どちらともいえない」/「あまり登録したくない」/「まったく登録したくない」と回答されました。その理由をお知らせください。(女性ベース：プレママ・ママ)

- ドナーミルクの利用意向は、全体で「ぜひ利用したい」が10.2%、「どちらかといえば」が19.5%（計29.7%）に留まり、約4割（43.6%）が「どちらともいえない」と回答している。
- 出産を控えた【プレママ・プレパパ】においては、利用意向が計45.2%（ぜひ22.3%+どちらかといえば22.9%）に達し、全体を15pt以上上回る高い受容性を示している。一方で、育児中の【ママ・パパ】では計36.9%（ぜひ15.5%+どちらかといえば21.4%）とやや低下する。
- 出産を控えた当事者は、子どもの健康を守る選択肢としてドナーミルクを肯定的に捉えている。全体としては登録意向と同様に否定派は少なく、判断材料が不足しているために態度を決めかねている「浮動層（どちらともいえない）」が多数を占めているため、適切な情報提供によって賛同へ転じる可能性を秘めている。

		n=	ぜひ利用したい	どちらかといえば 利用したい	どちらともいえない	どちらかといえば 利用したくない	まったく 利用したくない
全体		10,000	10.2	19.5	43.6	9.8	16.9
プレママ・プレ パパ/ママ・ パパ	プレママ・プレ パパ	157	22.3	22.9	31.8	12.1	10.9
	ママ・パパ	237	15.5	21.4	37.9	10.7	14.5

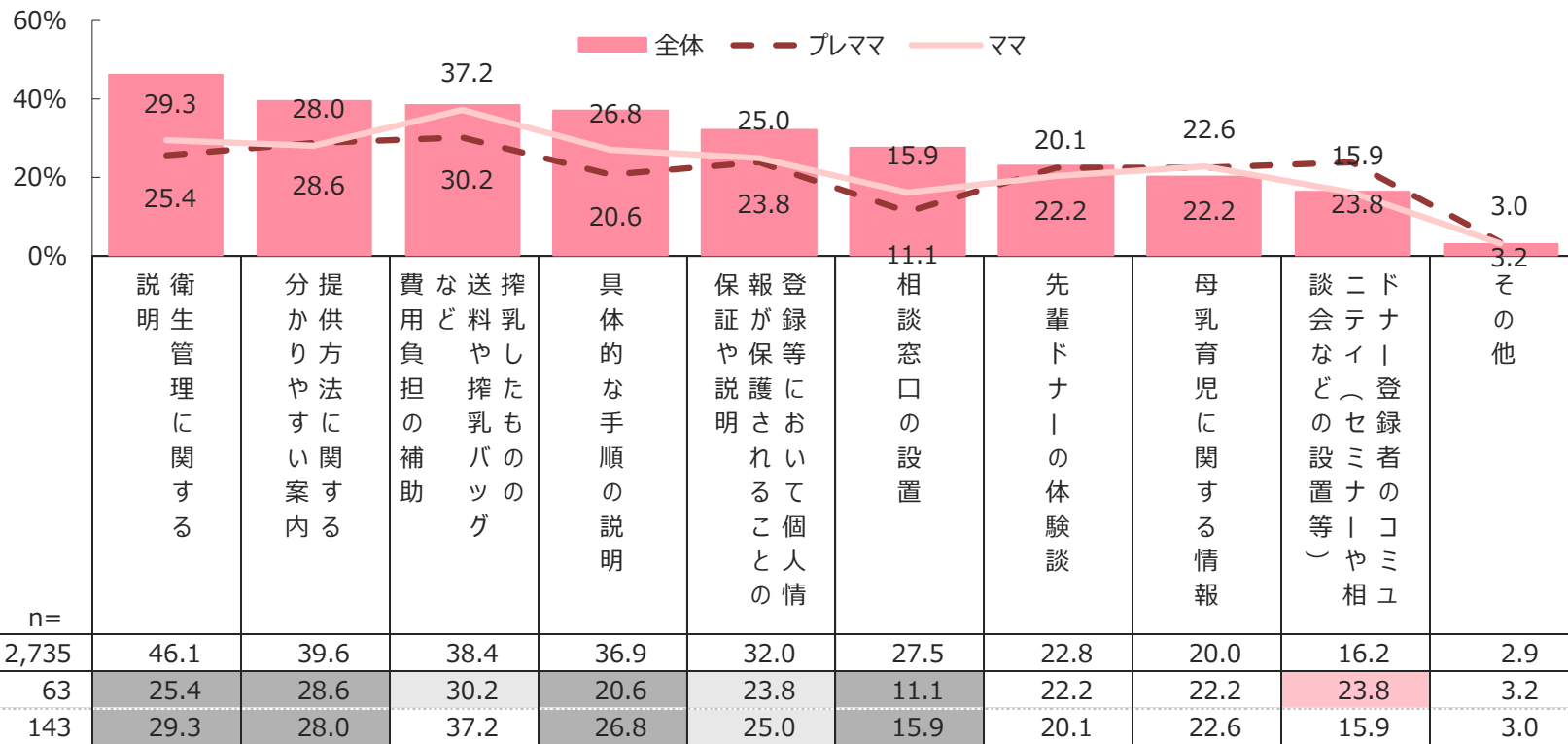
Q12 もしご自身のお子様がドナーミルクを必要とする状況になったとしたら、あなたは親として利用したいと思いますか。（SA）

- 利用したくない理由として、全体では「感染症などが心配 (40.1%)」、「衛生面が心配 (38.4%)」が上位を占め、見知らぬ他人の母乳を取り入れることへの品質管理や安全性への不安が最大の心理的障壁となっている。
- 当事者である【プレママ・プレパパ】は、衛生面への不安 (24.4%) が全体を10pt以上下回っており、安全性に対して比較的冷静に理解している。
- 認知率の低い一般層の懸念 (感染症・衛生面) が、当事者であるプレママ・プレパパの利用を阻害する「家族ブロック」の正体であると推察される。当事者自身は制度の必要性や安全性を理解していても、周囲の無理解が強烈なブレーキとして機能している構造がデータから裏付けられている。



Q14 先ほどの設問で「どちらともいえない」 / 「どちらかといえば利用したくない」 / 「まったく利用したくない」と回答されました。その理由をお知らせください。(MA)

- 登録を前向きにするために必要な支援として、全体では「衛生管理の説明（46.1%）」がトップだが、【プレママ】ではそれが25.4%に留まっている。
- 代わりに「ドナー登録者のコミュニティ（23.8%）」や「母乳育児の情報（22.2%）」を求めている。事務的な説明よりも、孤立しがちな育児期における「社会とのつながり」や「共感」を価値として感じている。



n=30以上で

- 全体+10pt以上
- 全体+5pt以上
- 全体-5pt以下
- 全体-10pt以下

※n=30未満は参考値のため灰色。

※全体の値を基準に降順並び替え ※男性は回答対象外。

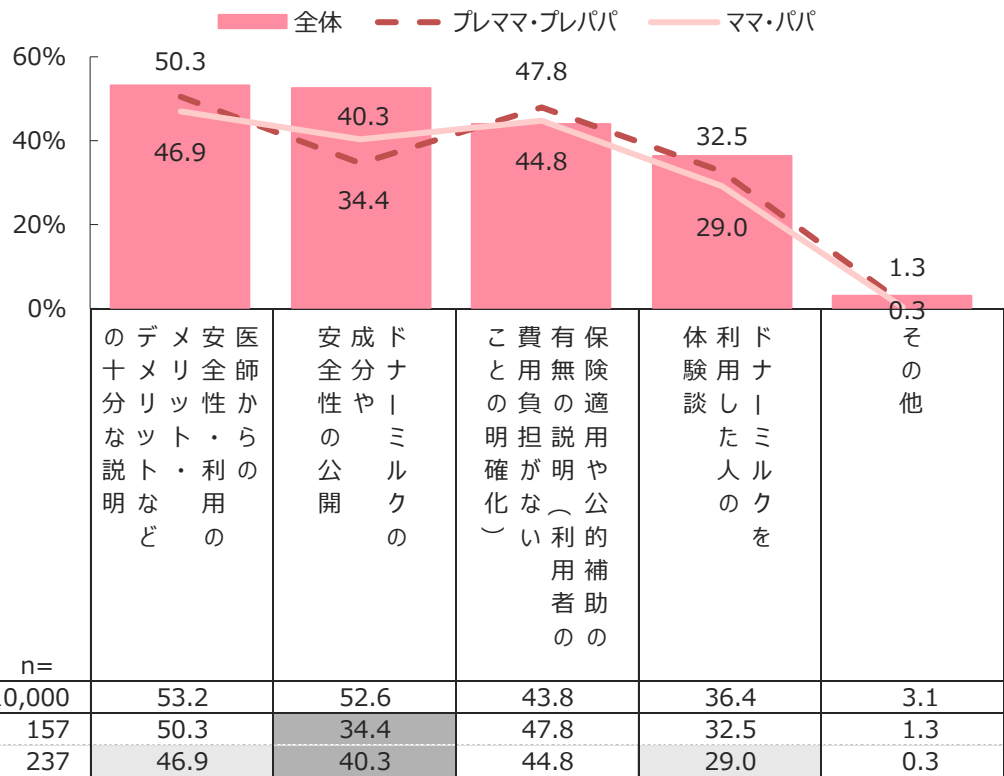
Q20 登録を前向きにするために、どのような情報や支援が必要ですか。(MA)

Topics 10 ターゲット別の「安心」の形- 認知・理解アップのために【参照: P31 / Q15】

- 抵抗感を減らすために、【祖父母世代】は「医師からの説明（63.1%）」を強く求めている（権威志向）P33参照。
- 一方で【プレママ・プレパパ】は「保険適用や公的補助（47.8%）」といった経済的・制度的な安心に関心が高い（実利志向）。

祖父母世代
「医師からの安全性・利用のメリット・デメリットなどの十分な説明」
63.1%

n=30以上で
■ 全体+10pt以上
■ 全体+5pt以上
■ 全体-5pt以下
■ 全体-10pt以下



		n=	全体	プレママ・プレパパ	ママ・パパ	
全体	10,000	53.2	52.6	43.8	36.4	3.1
プレママ・プレパパ	157	50.3	34.4	47.8	32.5	1.3
ママ・パパ	237	46.9	40.3	44.8	29.0	0.3

※全体の値を基準に降順並び替え

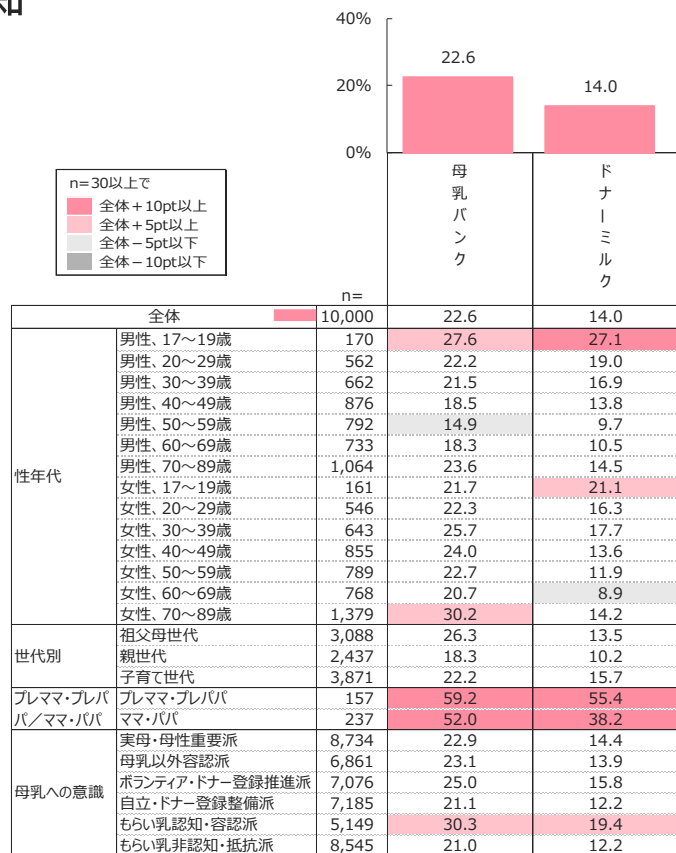
Q15 利用への抵抗感を減らすために、どのような取り組みが必要だと思いますか。(MA)

認知度調査結果 詳細

「母乳バンク」「ドナーミルク」の認知者／非認知者特徴

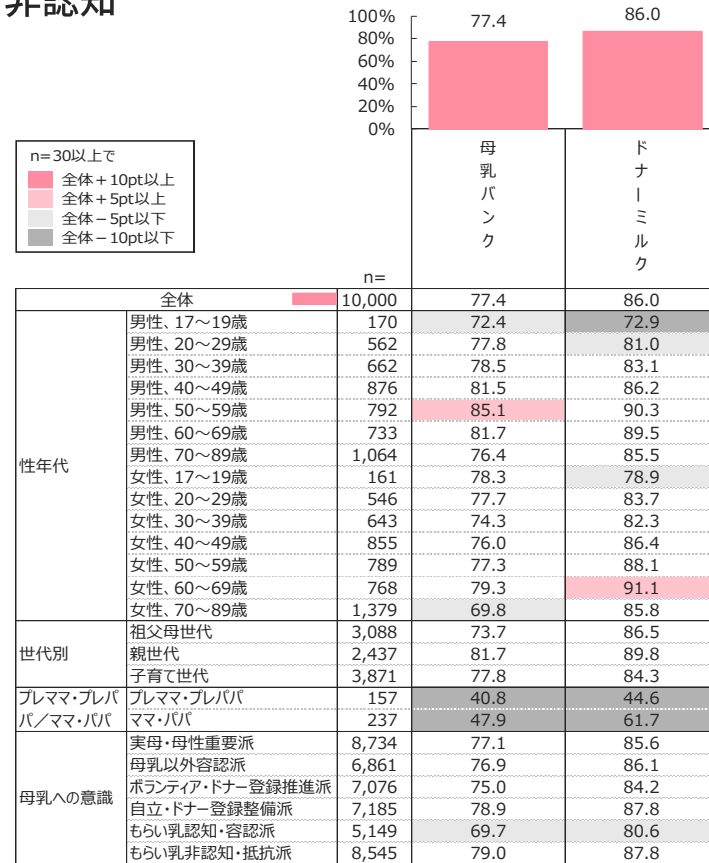
- 全体では、認知率が約2割（母乳バンク22.6%、ドナーミルク14.0%）にとどまり、一般社会全体への浸透は限定的である。
- ターゲットである【プレママ・プレパパ】においては、認知率が母乳バンク59.2%／ドナーミルク55.4%）と半数を上回り、突出した認知を獲得している。【ママ・パパ】も高水準だが、これから出産を迎える【プレママ・プレパパ】の方がより数値が高く、当事者意識がもっとも高まるライフステージにおいて、情報が確実にリーチしていることが確認できる。一方で、一般の男性層や子育てを終えた親世代などでは認知が低迷しており、関心の有無による「知識レベルの二極化」が顕著な構造となっている。

認知



※全体の値を基準に降順並び替え

非認知



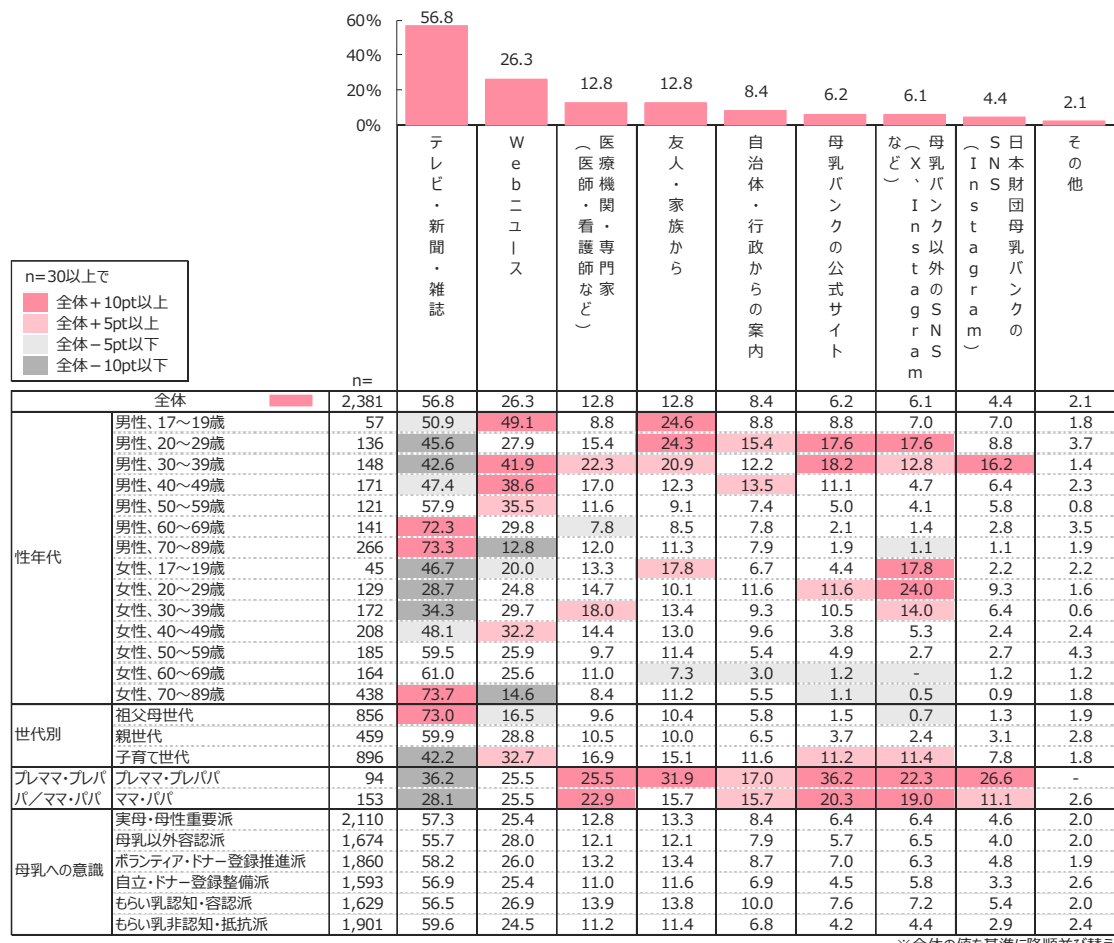
※全体の値を基準に降順並び替え

Q1 【認知一覧】あなたは「母乳バンク」や「ドナーミルク」という言葉や仕組みをご存知でしたか。(MA)

Q1 【非認知一覧】あなたは「母乳バンク」や「ドナーミルク」という言葉や仕組みをご存知でしたか。非認知 (MA)

「母乳バンク・ドナーミルク」の認知経路

- 全体では、「テレビ・新聞・雑誌」が約6割（56.8%）を占めて圧倒的であり、一般的な認知はいまだマスメディアによる受動的な接触が中心となっている。
- 当事者である【プレママ・プレパパ】において「母乳バンクの公式サイト」（36.2%）や「母乳バンク以外のSNS」（22.3%）が全体を大きく上回り、自ら情報を探す能動的な姿勢が顕著である。また「医療機関・専門家」（25.5%）からの認知も全体より高い傾向にあるが、Webメディア等と比較すると依然として拡大の余地があり、医療現場での啓発強化の重要性が示唆される。



※全体の値を基準に降順並び替え

Q2 あなたは「母乳バンク」や「ドナーミルク」という言葉や仕組みをどちらでお知りになりましたか。(MA)

「母乳バンク」の理解度

- 全体では、75.4%が理解（「よく理解できた」（16.9%）、「ある程度理解できた」（58.5%））を示しており、情報さえ届けば社会的な受容性は高く、概念そのものの難解さは大きな障壁ではないことがわかる。
- 属性別では、ターゲットである【プレママ・プレパパ】において「よく理解できた」が32.5%と全体（16.9%）の約2倍に達し、当事者意識の高さから、提供された情報を深く正確に消化できている様子がうかがえる。また、他の世代・属性を見ても「まったく理解できなかった」は最大でも2割以下と限定的であり、世代を問わず、適切な説明機会があればコンセンサスを得やすいテーマであると言える。

		n=				
		よく理解できた	ある程度理解できた	あまり理解できなかった	まったく理解できなかった	
全体		10,000	16.9	58.5	13.5	11.1
性年代	男性、17～19歳	170	15.3	55.3	16.5	12.9
	男性、20～29歳	562	16.2	48.0	16.5	19.2
	男性、30～39歳	662	14.2	53.9	14.2	17.7
	男性、40～49歳	876	13.2	55.0	17.2	14.5
	男性、50～59歳	792	13.9	57.6	14.6	13.9
	男性、60～69歳	733	12.7	61.4	16.1	9.8
	男性、70～89歳	1,064	15.1	61.7	16.3	7.0
	女性、17～19歳	161	19.3	62.7	10.6	7.5
	女性、20～29歳	546	16.8	50.2	15.2	17.8
	女性、30～39歳	643	16.6	53.7	14.0	15.7
	女性、40～49歳	855	18.2	57.7	11.7	12.4
	女性、50～59歳	789	18.3	63.2	10.9	7.6
	女性、60～69歳	768	22.9	60.8	9.6	6.6
	女性、70～89歳	1,379	21.5	65.3	9.2	4.0
世代別	祖父母世代	3,088	18.5	63.8	12.0	5.7
	親世代	2,437	16.8	59.9	13.3	10.1
	子育て世代	3,871	15.8	53.8	14.7	15.7
プレママ・プレパパ/ママ・パパ	プレママ・プレパパ	157	32.5	49.0	9.6	8.9
	ママ・パパ	237	25.9	54.5	9.3	10.3
母乳への意識	実母・母性重要派	8,734	17.2	60.2	13.2	9.3
	母乳以外容認派	6,861	17.5	58.3	12.8	11.5
	ボランティア・ドナー登録推進派	7,076	18.9	59.4	13.0	8.7
	自立・ドナー登録整備派	7,185	15.6	59.4	13.7	11.4
	もらい乳認知・容認派	5,149	22.5	56.0	11.4	10.1
もらい乳非認知・抵抗派	8,545	16.3	60.5	13.1	10.1	

Q3 先ほどお読みいただいた説明文で、「母乳バンク」の仕組みについてどの程度理解できましたか。（SA）

「母乳バンク」のイメージ

- 全体として、「社会貢献度の高い取り組みだ」（56.3%）や「信頼できる仕組みだ」（47.4%）への「あてはまる・計」は高く、医療インフラとしての「正当性」や「意義」は十分に市場に浸透し、ポジティブに受け入れられている。
- 一方、「個人的に興味・関心がある」（21.3%）や「他人の母乳を使うことに抵抗感はない」（25.3%）は低く、社会的に正しいとは理解しつつも、自分事としては捉えられていない「心理的な距離」が浮き彫りになっている。「もっと広く普及すべき活動だ」（42.7%）という社会的な期待と、当事者意識の低さとの間に見られるギャップは、多くの層にとって母乳バンクが依然として「自分とは関係のない遠い世界の話」と認識されていることを示唆している。
- また、「誰でも参加しやすそうだ」（26.1%）という評価も低く、利用や協力に対する手続き的なハードルの高さや、敷居の高さがイメージされている現状がある。

評価項目	n=	あてはまる・計			あてはまらない・計		あてはまる・計 (%)	あてはまらない・計 (%)	平均
		非常にあてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない			
信頼できる仕組みだ	9,887	11.5	35.9		41.9	6.1	47.4	10.7	0.4
公的に認められている仕組みだ	9,887	12.9	34.4		42.4	5.8	47.3	10.3	0.5
社会貢献度の高い取り組みだ	9,887	19.7	36.6		34.5	4.8	56.3	9.2	0.6
保管や使用の面で安全性が高そうだ	9,887	10.2	29.1		47.5	8.3	39.3	13.1	0.3
誰でも参加しやすそうだ	9,887	5.8	20.3	49.5		17.0	26.1	24.4	-
利用者の費用負担が少ない・費用が掛からなそうだ	9,887	9.2	27.0		50.2	8.5	36.2	13.7	0.3
他人の母乳を使うことに抵抗感はない	9,887	6.6	18.7	49.9		15.8	25.3	24.8	- 0.0
個人的に興味・関心がある	9,887	5.2	16.1	44.7		18.9	21.3	34.0	- 0.2
もっと広く普及すべき活動だ	9,887	12.3	30.4		45.1	6.8	42.7	12.2	0.4

※平均は「非常に当てはまる」=2、「ややあてはまる」=1、「どちらともいえない」=0、「あまりあてはまらない」=-1、「まったくあてはまらない」=-2、の各ウェイトより算出。

Q4 「母乳バンク」や「ドナーミルク」に対して、どのようなイメージを持たれましたか。ご自分の考えに近いものをお知らせください。【全体ベース】（SA）

ドナーの認知度 【全体ベース】

- 「献血」（89.2%）、「骨髄バンク」（85.1%）、「臓器提供」（82.6%）は認知が8割を超え、国民的な医療インフラとして定着しているが、関与の機会が限られる「臍帯バンク」等は3割台にとどまり、制度によって大きな開きが見られる。
- 既出の「母乳バンク」の認知率（22.6%）と比較すると、「臍帯バンク」（35.8%）をさらに下回る水準にあり、他の医療ドナー制度と比較しても認知拡大は初期段階に位置している。
- さらに、「献血」は「内容まで知っている」が66.0%に達するのに対し、既出の「母乳バンク」ではわずか4.5%に過ぎず、単なる名称認知だけでなく、「どのような仕組みか」という中身の理解促進が急務となっている。

	n=	認知			（%）	
		内容まで知っている	言葉だけ知っている	聞いたことがない／知らない	認知	非認知
献血	10,000	66.0	23.2	10.8	89.2	10.8
骨髄バンク	10,000	35.9	49.2	14.9	85.1	14.9
臍帯バンク	10,000	8.0	27.8	64.2	35.8	64.2
臍帯血バンク	10,000	10.5	30.5	59.0	41.0	59.0
臓器提供（意思表示を含む）	10,000	41.2	41.4	17.4	82.6	17.4
アイバンク（角膜提供）	10,000	23.3	38.7	38.0	62.0	38.0

Q5 以下の医療・ドナー制度について、あなたはどの程度ご存知ですか。【全体ベース】（SA）

ドナーミルク経験 【全体ベース】

- 全体では、「登録者や利用者が周囲にはいない」（母乳バンク96.3%、ドナーミルク96.2%）が圧倒的多数を占めており、ドナー登録・利用ともに生活者の実体験としての接触はほぼ皆無に近い状況である。
- 「自分自身」の経験は1%前後（母乳バンク0.4%、ドナーミルク1.1%）にとどまり、家族や知人を含めても接点を持つ人は極めて稀であることから、現状では口コミや身近な事例による自然な認知拡大は期待しにくいフェーズにある。この「原体験の欠如」は、イメージで見られた「心理的な距離感」や「自分事化の難しさ」の根本原因となっており、身近な「体験談」が社会に流通していないことが浮き彫りとなっている。

			自分自身	家族	親戚	友人・知人	周登録者や利用者がいない者が	
n=30以上で 項目内で1位 項目内で2位 項目内で3位			n=					
項目	母乳バンクへのドナー登録	10,000	0.4	1.8	0.9	1.1	96.3	
	ドナーミルクの利用	10,000	1.1	1.5	0.9	0.9	96.2	

Q7 ご自身の身近な方でドナーとして母乳バンクに登録されたことのある方や、ドナーミルクの提供を受けられた赤ちゃん（のご家族）はいらっしゃいますか。【全体ベース】 (MA)

「母乳ドナー」の登録推奨意向

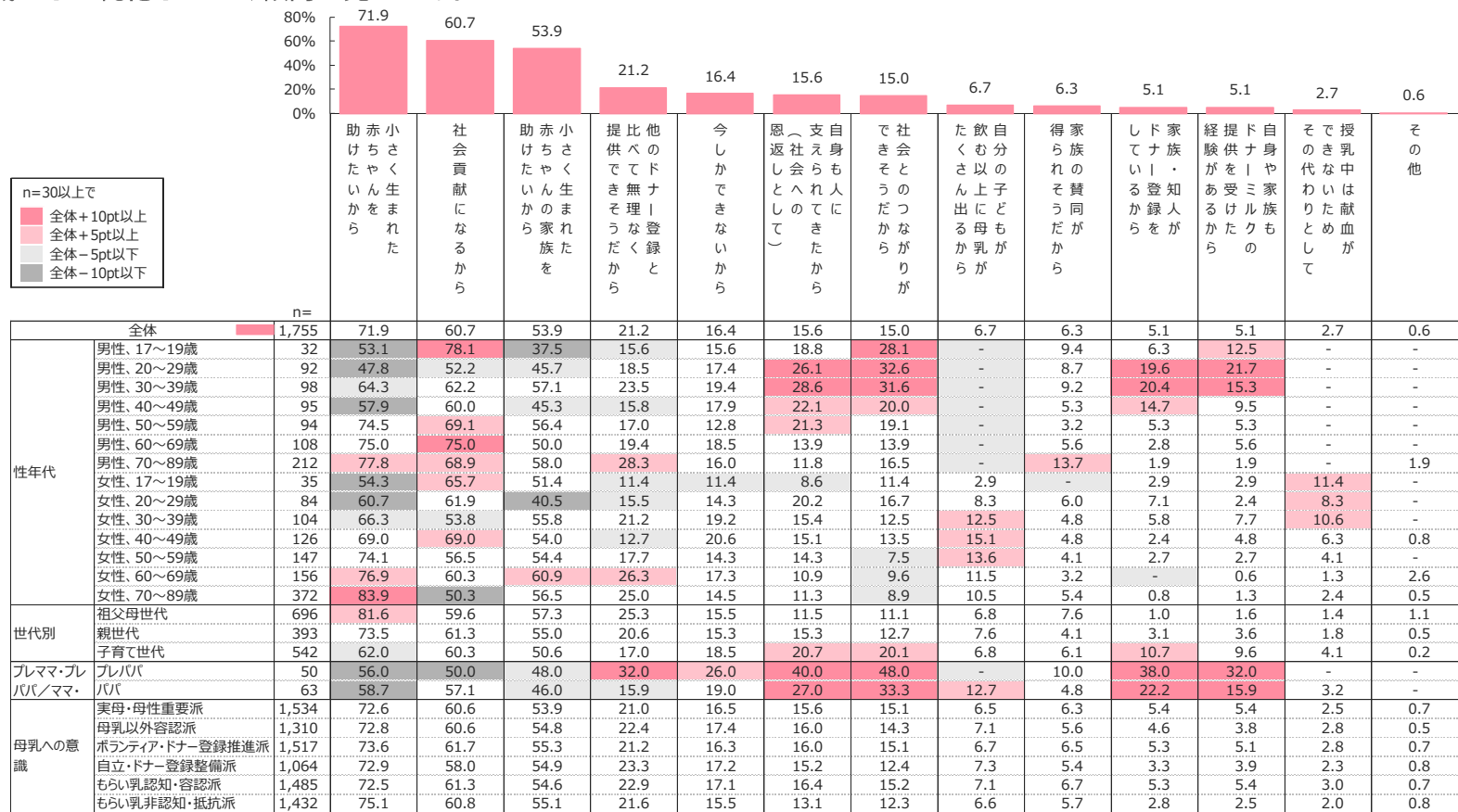
- 全体では、「登録意向」（「ぜひ登録したい（してほしい）」（5.2%）、「やや登録したい（して欲しい）」（12.5%））は17.7%にとどまり、約半数（49.8%）が「どちらともいえない」と回答していることから、多くの人にとって判断材料が不足しているか、自分事として捉えきれていない様子が見えてくる。
- ターゲットである【プレパパ】においては、過半数（53.2%）が登録意向を示しており、全体平均を35pt以上も上回る、極めて高い協力意欲（ポテンシャル）が存在している。また、実際に育児中である【パパ】の意向は6割を超えており意識の高さが表れている。

		(%)					
		ぜひ登録したい (してほしい)	やや登録したい (してほしい)	どちらともいえない	あまり登録したくない (してほしくない)	まったく登録したくない (してほしくない)	
n=							
全体		9,887	5.2	12.5	49.8	10.2	22.2
性年代	男性、17~19歳	170	3.5	15.3	44.1	15.3	21.8
	男性、20~29歳	562	5.9	10.5	49.6	8.7	25.3
	男性、30~39歳	662	4.2	10.6	50.8	7.6	26.9
	男性、40~49歳	876	3.1	7.8	56.3	9.1	23.7
	男性、50~59歳	792	2.7	9.2	55.9	8.6	23.6
	男性、60~69歳	733	5.2	9.5	55.4	11.1	18.8
	男性、70~89歳	1,064	5.7	14.2	52.4	11.8	15.8
	女性、17~19歳	160	5.0	16.9	40.6	15.0	22.5
	女性、20~29歳	503	5.0	11.7	39.6	13.3	30.4
	女性、30~39歳	591	5.6	12.0	38.4	10.7	33.3
	女性、40~49歳	838	3.9	11.1	46.2	9.5	29.2
	女性、50~59歳	789	4.1	14.6	48.9	10.9	21.5
	女性、60~69歳	768	6.6	13.7	48.7	9.9	21.1
	女性、70~89歳	1,379	8.7	18.3	50.5	9.9	12.6
世代別	祖父母世代	3,088	7.3	15.2	51.9	10.9	14.6
	親世代	2,437	4.0	12.1	51.7	9.7	22.5
	子育て世代	3,764	4.2	10.2	47.8	9.6	28.2
プレママ・プレパパ／ママ・パパ	プレママ	94	28.7	24.5	33.0	1.1	12.8
	プレパパ	94	35.1	31.9	2.1	20.2	10.6
母乳への意識	実母・母性重要派	8,640	5.3	12.5	51.0	10.8	20.5
	母乳以外容認派	6,781	5.7	13.7	49.6	9.6	21.5
	ボランティア・ドナー登録推進派	7,008	6.4	15.2	50.6	9.4	18.4
	自立・ドナー登録整備派	7,105	4.1	10.9	50.4	11.0	23.6
	もらい乳認知・容認派	5,086	9.3	19.9	47.4	7.1	16.3
もらい乳非認知・抵抗派	8,458	4.6	12.3	50.9	10.7	21.4	

Q8 もしあなたが（あるいはあなたのパートナーが）授乳期の女性で、母乳を提供できる状況だったとしたら、「母乳ドナー」として登録したい（してほしい）と思いますか。（SA）

「母乳バンク」 登録推奨の意向理由

- 全体では、「小さく生まれた赤ちゃんを助けたいから」(71.9%)、「社会貢献になるから」(60.7%)が特に高く、純粋な利他性や人助けの精神が登録意向を支える最大の基盤となっている。
- ターゲットである【プレパパ】を見ると、「他のドナー登録と比べて無理なく提供できそうだから」(32.0%)、「今しかできないから」(26.0%)が全体を上回っており、理念だけでなく、現実的な「実行のしやすさ」、「期間限定性」が具体的なアクションの引き金になっている。対照的に、【祖父母世代】では「赤ちゃんを助けたい」(81.6%)が突出しており、世代が上がるほど情緒的な共感や理念への賛同が動機として純化していく傾向が見られる。

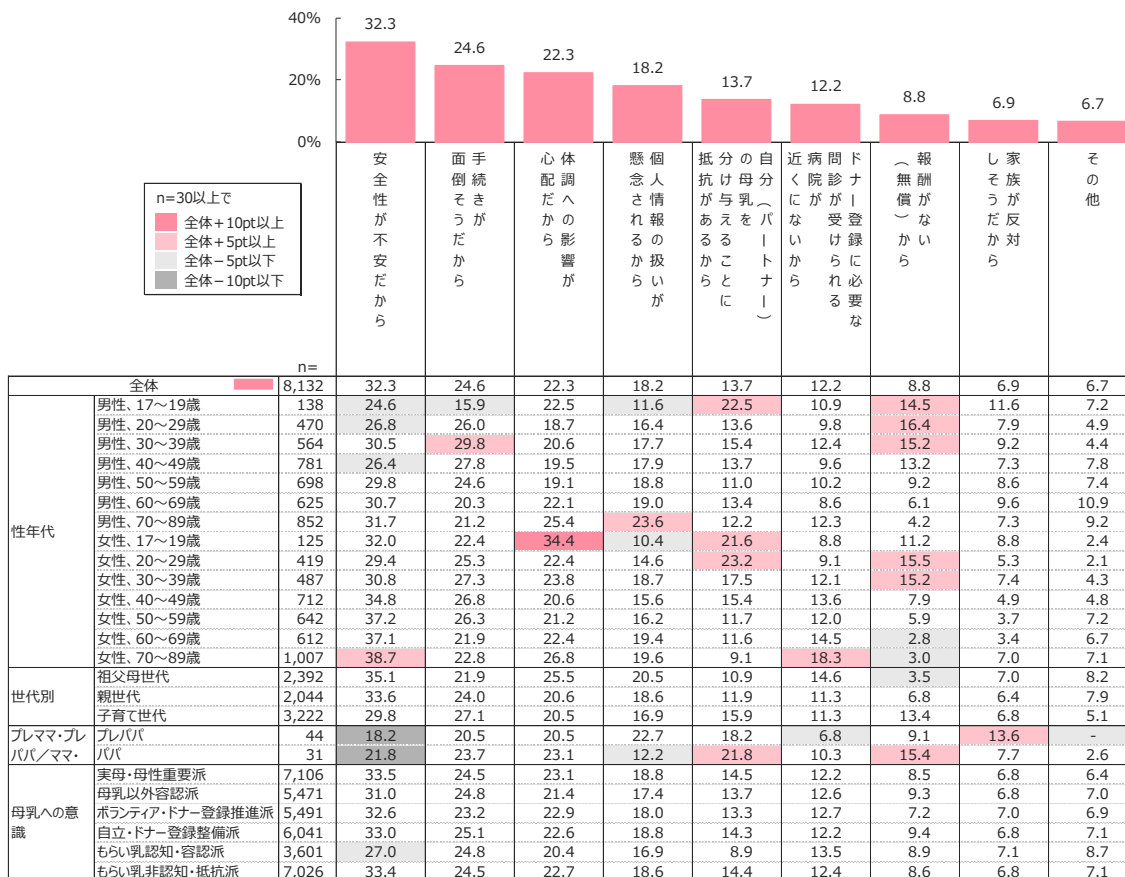


※全体の値を基準に降順並び替え

Q9 先ほどの設問で「ぜひ登録したい(してほしい)」/「やや登録したい(してほしい)」と回答されました。その理由をお知らせください。(MA)

「母乳バンク」 登録推奨の非意向理由

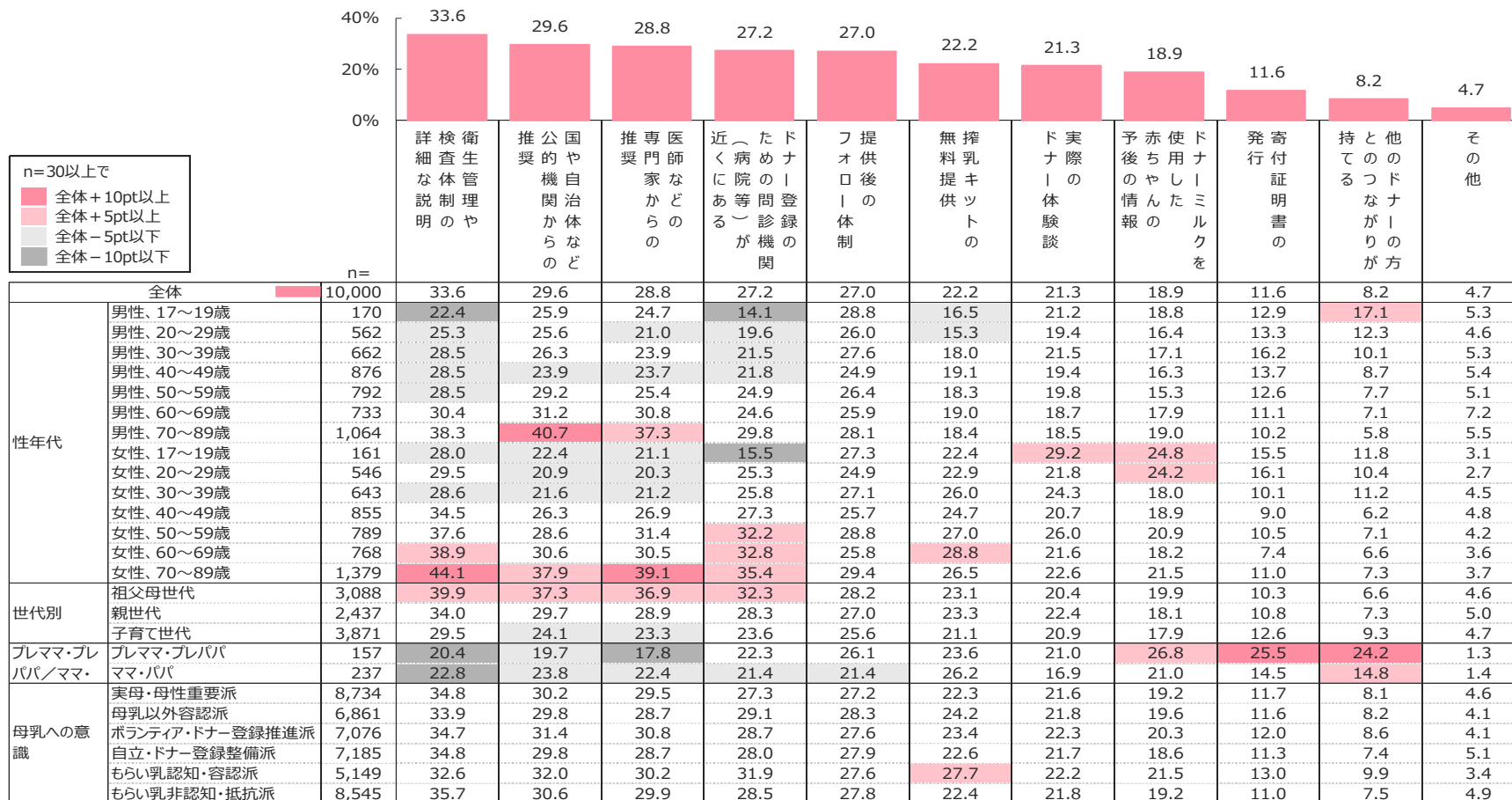
- 全体では、「安全性が不安だから」(32.3%) がもっとも高く、「手続きが面倒そうだから」(24.6%)、「体調への影響が心配だから」(22.3%) が続くことから、制度自体の信頼性と負担感が参加への主要なハードルとなっている。
- 【プレパパ】では、「安全性」への懸念は低い(18.2%)ものの、「家族が反対しそうだから」(13.6%)が全体(6.9%)を6.7pt上回り、ボトルネックであることがわかる。また、【パパ】では、「パートナーの母乳を分け与えることに抵抗があるから」(21.8%)が全体より8.1pt高く、我が子の栄養確保を最優先に考える当事者特有の切実な不安が見られる。
- 【女性10代】においては、「体調への影響が心配だから」(34.4%)が突出して高く、若年層には体調への不安感が強く残っている現状が浮き彫りとなっている。



Q10 先ほどの設問で「どちらともいえない」/「あまり登録したくない(してほしくない)」/「まったく登録したくない(してほしくない)」と回答されました。その理由をお知らせください。(MA)

サポート方法

- 全体では、「衛生管理や検査体制の詳細な説明」(33.6%)、「国や自治体など公的機関からの推奨」(29.6%)が上位を占め、制度の安全性と社会的信用が一般的な安心材料として求められている。
- ターゲットである【プレママ・プレパパ】は、「寄付証明書の発行」(25.5%)、「他のドナーの方とのつながりが持てる」(24.2%)といった要望が全体より10pt以上高く、管理面よりも貢献の可視化やコミュニティといった情緒的価値を重視している。さらに、「ドナーミルクを使用した赤ちゃんの予後の情報」(26.8%)も全体より7.9pt高く、自分の提供した母乳がどう役立つかという透明性も求めている。対照的に、【祖父母世代】は「国や自治体など公的機関からの推奨」(37.3%)を求めている。



Q11 ドナー登録を後押しするために、どのような情報やサポートがあれば良いと思いますか。(MA)

※全体の値を基準に降順並び替え

「ドナーミルク」の意向理由

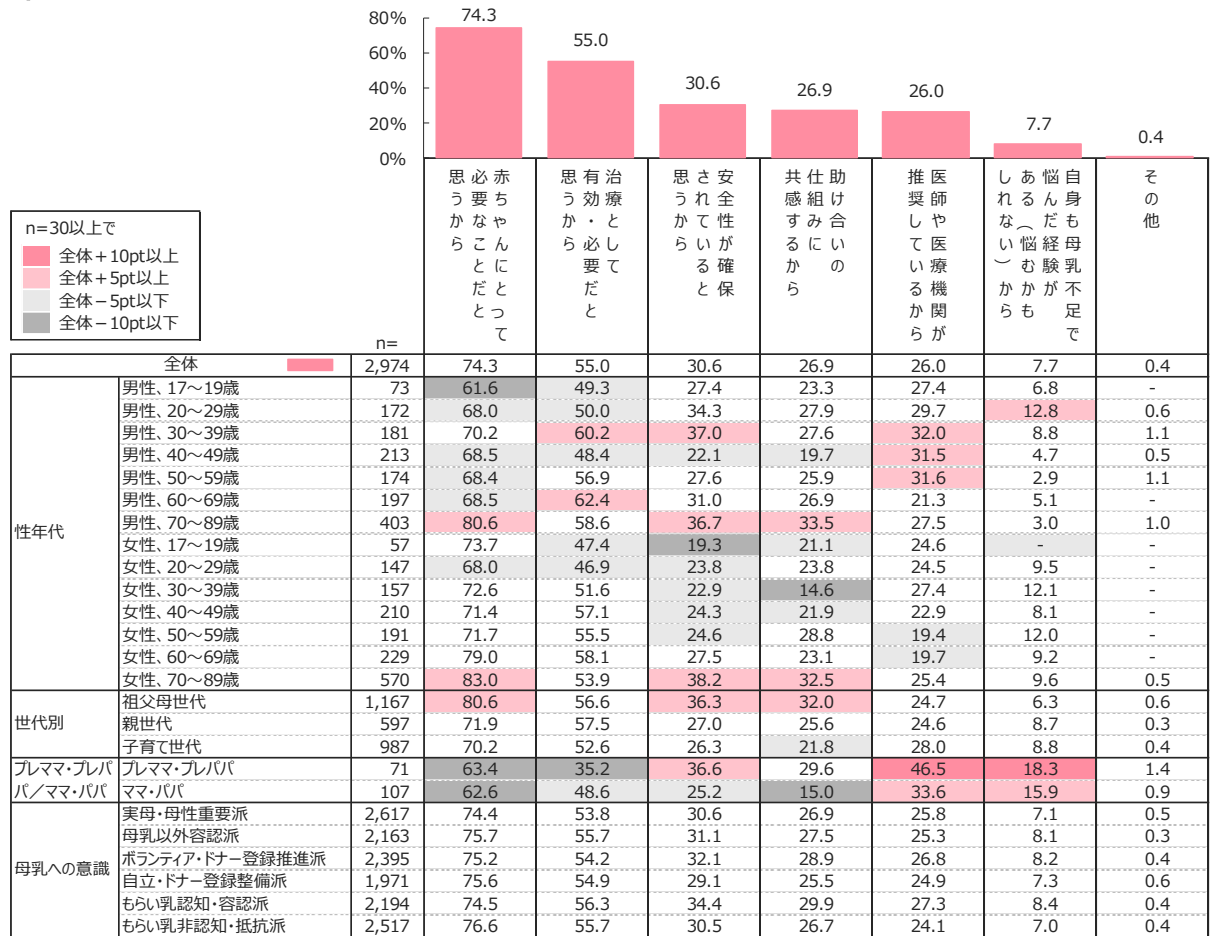
- 全体では、「利用意向」(29.7%) (「ぜひ利用したい(10.2%)」+「どちらかといえば利用したい」(19.5%))は3割弱にとどまり、「どちらともいえない」(43.6%)が多数を占めることから、多くの人判断材料を持たず、態度を保留している状況である。
- ターゲットである【プレママ・プレパパ】の利用意向は45.2%に達し、全体を15pt以上上回ることから、出産を控えた当事者は、子どもの健康を守るための選択肢としてドナーミルクを肯定的に捉えている。また、【祖父母世代】の利用意向も37.8%と全体平均より高く、孫の健やかな成長のためであれば、第三者の母乳活用も厭わないという柔軟な支援姿勢が見て取れる。一方で、「利用したくない」は全体で26.7%と少数派であり、潜在的な拒否感は限定的である。

		n=	(%)				
			ぜひ利用したい	どちらかといえば利用したい	どちらともいえない	どちらかといえば利用したくない	まったく利用したくない
全体		10,000	10.2	19.5	43.6	9.8	16.9
性年代	男性、17～19歳	170	14.7	28.2	35.9	8.2	12.9
	男性、20～29歳	562	10.9	19.8	43.2	6.6	19.6
	男性、30～39歳	662	9.8	17.5	44.0	10.6	18.1
	男性、40～49歳	876	7.8	16.6	47.0	10.0	18.6
	男性、50～59歳	792	5.8	16.2	49.9	9.1	19.1
	男性、60～69歳	733	10.1	16.8	49.1	9.3	14.7
	男性、70～89歳	1,064	13.9	24.0	41.3	9.4	11.5
	女性、17～19歳	161	11.8	23.6	36.0	12.4	16.1
	女性、20～29歳	546	8.2	18.7	38.8	11.0	23.3
	女性、30～39歳	643	9.6	14.8	39.0	11.4	25.2
	女性、40～49歳	855	7.0	17.5	40.2	10.8	24.4
	女性、50～59歳	789	7.5	16.7	47.5	12.0	16.2
	女性、60～69歳	768	10.7	19.1	45.1	9.8	15.4
	女性、70～89歳	1,379	15.1	26.3	41.5	8.3	8.8
世代別	祖父母世代	3,088	14.0	23.8	42.8	8.7	10.7
	親世代	2,437	7.6	16.9	47.8	10.5	17.2
	子育て世代	3,871	8.6	16.9	42.6	10.3	21.5
プレママ・プレパパ/ママ・パパ	プレママ・プレパパ	157	22.3	22.9	31.8	12.1	10.9
	ママ・パパ	237	15.5	21.4	37.9	10.7	14.5
母乳への意識	実母・母性重要派	8,734	10.2	19.7	44.9	10.1	15.0
	母乳以外容認派	6,861	11.1	20.4	42.7	9.4	16.4
	ボランティア・ドナー登録推進派	7,076	12.2	21.6	43.7	8.8	13.6
	自立・ドナー登録整備派	7,185	8.7	18.7	44.1	10.4	18.0
	もらい乳認知・容認派	5,149	16.7	25.9	38.3	6.8	12.2
もらい乳非認知・抵抗派	8,545	9.7	19.8	44.2	10.1	16.3	

Q12 もしご自身のお子様がドナーミルクを必要とする状況になったとしたら、あなたは親として利用したいと思いますか。(SA)

「ドナーミルク」利用の意向理由

- 全体では、「赤ちゃんにとって必要なことだと思うから」(74.3%)、「治療として有効・必要だと思うから」(55.0%)が半数を超えており、特に高い。子どもの生命と健康を守るための「医療的な必要性」が利用動機の根幹にあることが確認できる。
- 【プレママ・プレパパ】においては、「医師や医療機関が推奨しているから」(46.5%)が全体(26.0%)を20pt以上も上回り、専門家による「お墨付き」が利用への不安を払拭する最大の決定打となっている。また、「自身も母乳不足で悩んだ経験がある(悩むかもしれない)から」(18.3%)も全体より10pt以上高く、育児における切実な課題を解決する現実的な手段としても期待を寄せていることが特徴的である。

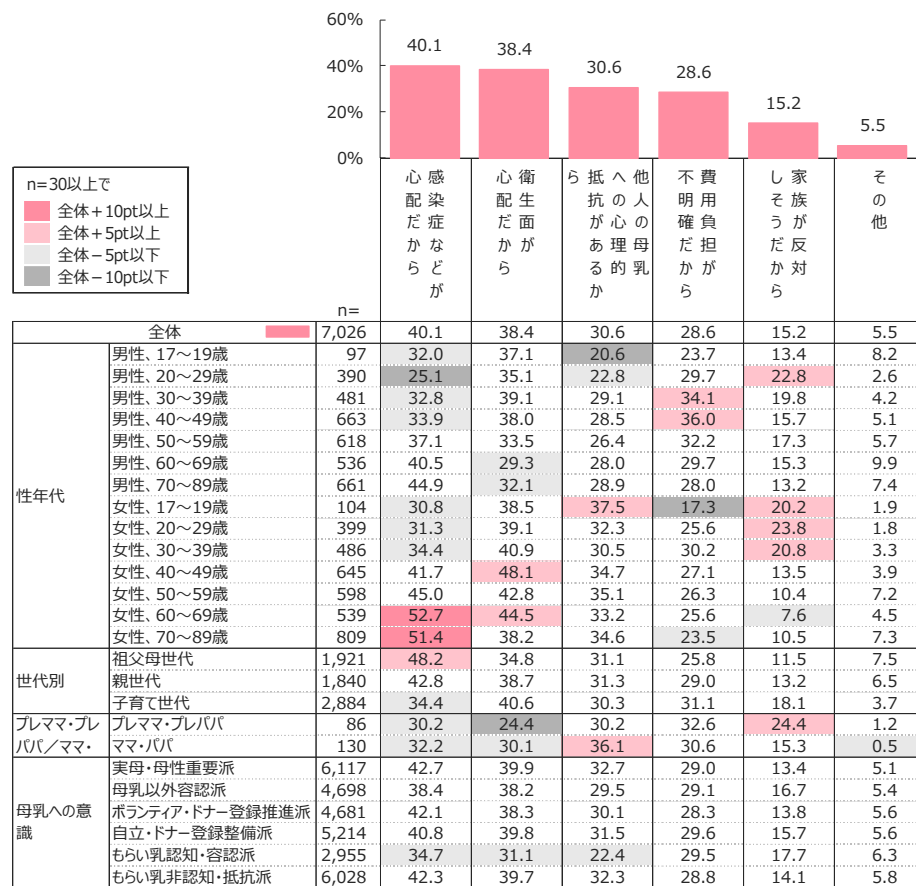


Q13 先ほどの設問で「ぜひ利用したい」/「どちらかといえば利用したい」と回答されました。その理由をお知らせください。(MA)

※全体の値を基準に降順並び替え

「ドナーミルク」非利用の意向理由

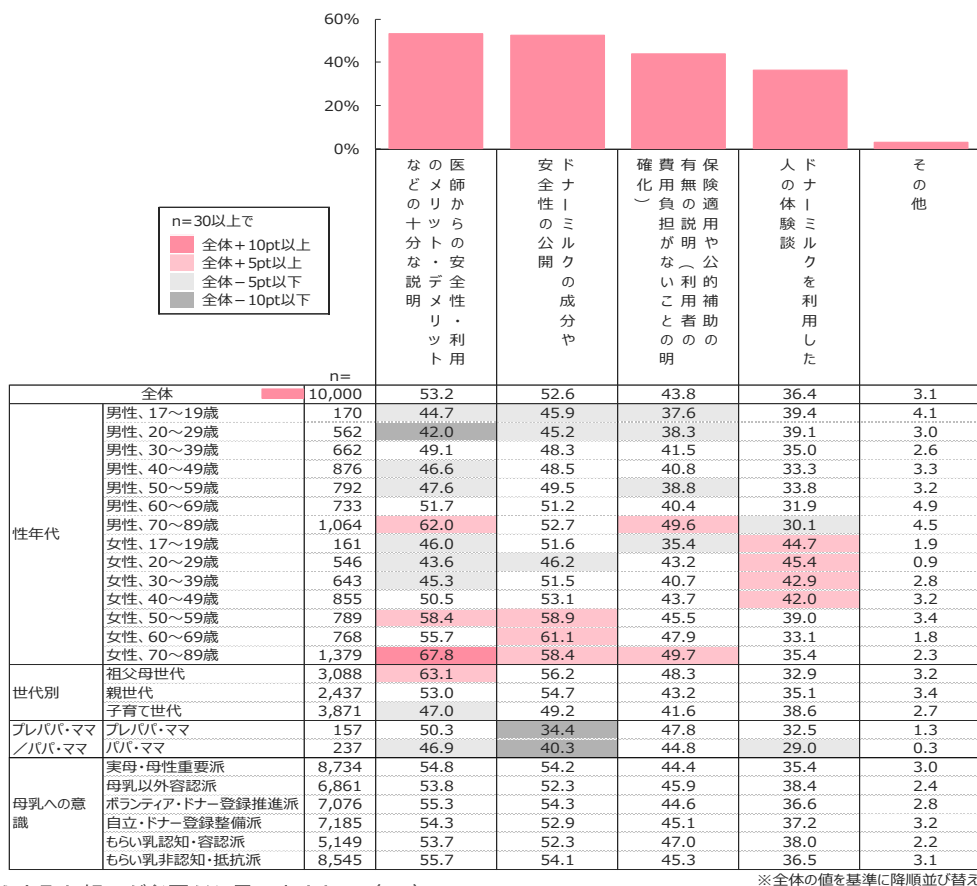
- 全体では、「感染症などが心配だから」(40.1%)、「衛生面が心配だから」(38.4%)といった、見知らぬ他人の母乳を取り入れることへの生理的・医学的な不安が最大の障壁となっている。
- しかし、ターゲットである【プレママ・プレパパ】を見ると、これらの安全性への懸念は全体平均を10pt前後下回っており、当事者はドナーミルクの安全性に対して比較的冷静な理解を持っている。その一方、「家族が反対しそうでから」(24.4%)が全体(15.2%)を9.2pt上回っており、自身の意思より周囲の無理解が利用のブレーキとなっている現状が見られる。実際に、【祖母世代(女性60代以上)】では「感染症などが心配だから」が半数を超えており、安全性への不安を示す割合が高く、この世代間ギャップが「家族ブロック」の正体であると推察される。



Q14 先ほどの設問で「どちらともいえない」/「どちらかといえば利用したくない」/「まったく利用したくない」と回答されました。その理由をお知らせください。(MA)

「ドナーミルク」利用の抵抗感低減への取り組み

- 全体では、「医師からの安全性・利用のメリット・デメリットなどの十分な説明」(53.2%)、「ドナーミルクの成分や安全性の公開」(52.6%)が半数を超えており、利用への抵抗感を下げるには、専門家による介入と透明性の担保がもっとも効果的な手段と考えられる。
- 【プレママ・プレパパ】は、「ドナーミルクの成分や安全性の公開」が34.4%と全体(52.6%)より18.2pt低く、他の世代ほどドナーミルクの品質に対して過度な懐疑心や生理的な拒否感を持っていないことが示唆される。一方で、「保険適用や公的補助の有無の説明」(47.8%)が相対的に高く、安全性よりも経済的な負担や制度面といった、より現実的な利用ハードルに関心を寄せている。逆に【祖父母世代】は「医師からの安全性・利用のメリット・デメリットなどの十分な説明」(63.1%)が全体(53.2%)より9.9pt高く、「家族の反対」を解消するには、当事者ではなくその親世代に向けて医師から安全性を説くアプローチが必要である。



※全体の値を基準に降順並び替え

Q15 利用への抵抗感を減らすために、どのような取り組みが必要だと思いますか。(MA)

該当思考 【全体ベース】

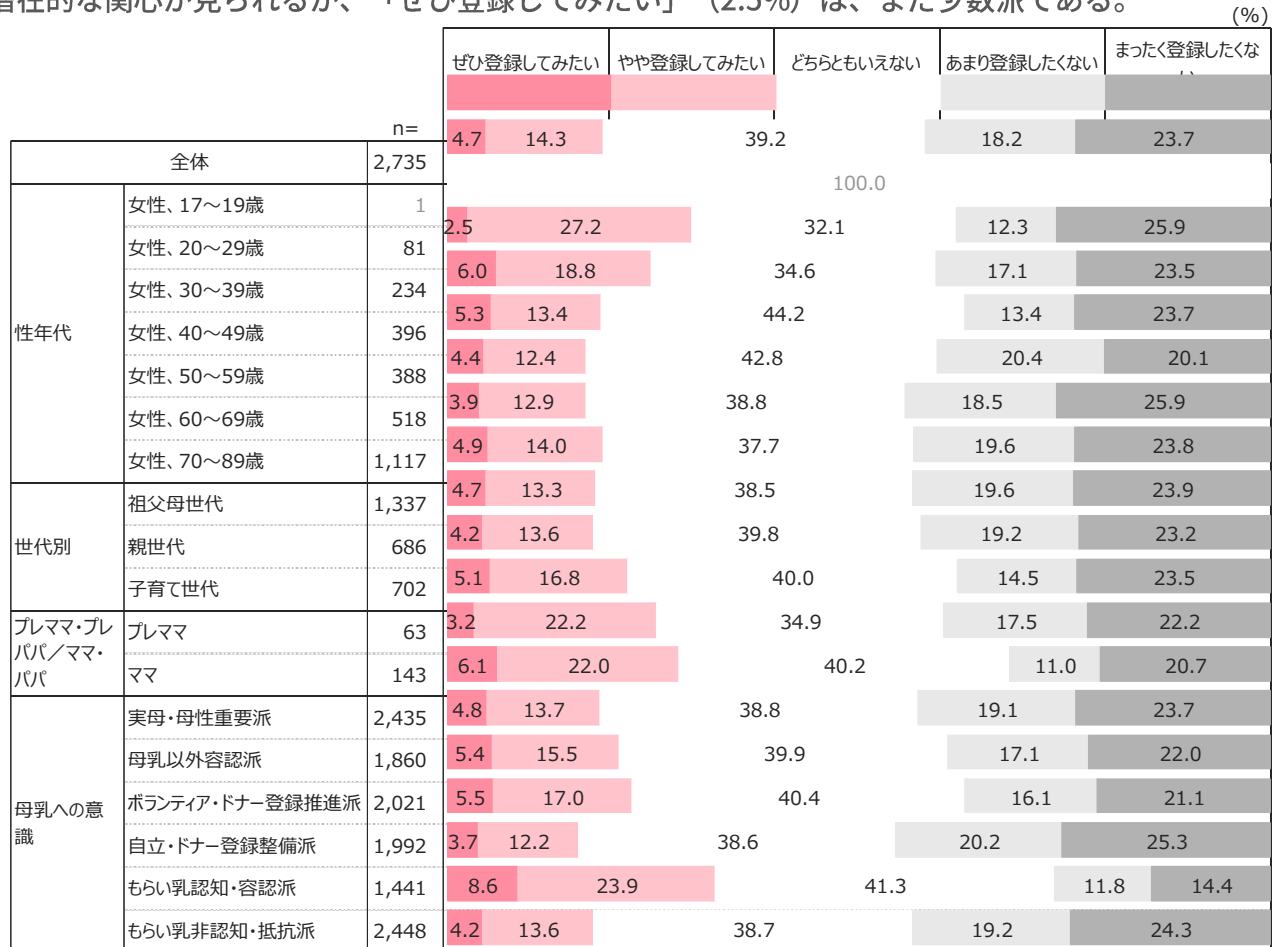
- 「赤ちゃんの栄養は、「母乳」が望ましい」（67.4%）が7割近い半面、「赤ちゃんに与える「母乳」は生んだ母親のものが望ましい」（74.5%）という、強い実母主義が根付いていることが確認できる。また、「困っている人がいたら見返りなく助けたい」（62.3%）、「子育てでは社会全体で助け合い行うべきだ」（57.1%）という共助精神の高さが見受けられる。
- 「実母の母乳へのこだわり」と「母乳を分け与えるには抵抗がある」（57.9%）」がセットとなり、頭では社会貢献の必要性を理解していても、感覚的にドナーミルクを受け入れがたいという心理的葛藤を生み出す根本原因となっていると考えられる。
- さらに、「ドナー登録などは自分から積極的に行うべきだ」（36.6%）よりも「ドナー登録の社会的制度をしっかりと整えるべきだ」（63.4%）とする比率が高く、個人の善意に依存するボランティア形式よりも、公的なインフラとしての整備を強く求めていることがわかる。

評価項目	n=	Aに近い・計				Bに近い・計 (%)			
		Aに近い	ややAに近い	ややBに近い	Bに近い	Aに近い・計	Bに近い・計		
A) 赤ちゃんの栄養は、「母乳」が望ましい ⇔B) 赤ちゃんの栄養は人工ミルクも取り入れるべきだ	10,000	21.9	45.5	26.3	6.3	67.4	32.6		
A) 赤ちゃんに与える「母乳」は生んだ母親のものが望ましい ⇔B) 赤ちゃんに与える「母乳」は誰の母乳でも問題ない	10,000	22.3	52.2	21.6	3.9	74.5	25.5		
A) 子育てはなるべく母親が担うべきだ ⇔B) 子育てでは社会全体で助け合い行うべきだ	10,000	9.1	33.8	42.2	15.0	42.9	57.1		
A) 困っている人がいたら見返りなく助けたい ⇔B) 自立して生活することが必要だ	10,000	11.8	50.5	32.1	5.6	62.3	37.7		
A) ドナー登録などは自分から積極的に行うべきだ ⇔B) ドナー登録の社会的制度をしっかりと整えるべきだ	10,000	6.0	30.7	49.9	13.5	36.6	63.4		
A) 母乳を分けてもらった経験がある ⇔B) 母乳を分けてもらった経験はない	5,525	2.2	10.9	15.7	71.1	13.1	86.9		
A) 母乳を分ける習慣を知っている ⇔B) 母乳を分ける習慣は知らない	10,000	5.3	24.6	32.4	37.8	29.9	70.1		
A) 母乳を分け与えることには抵抗がない ⇔B) 母乳を分け与えるには抵抗がある	10,000	7.5	34.7	40.5	17.3	42.1	57.9		

Q16 子育てや社会についての考え方として、あなたにあてはまるものをお選びください。【全体ベース】 (SA)

ママ／プレママ 「母乳ドナー」の意向

- 全体では、登録意向は19.0%にとどまり、「どちらともいえない」(39.2%)が4割近く、自身の協力については慎重な姿勢が支配的である。
- 【プレママ】の登録意向は25.4%、【ママ】は28.1%と全体より高いものの3割以下であり、「制度への賛同」と「自身の行動」の間には、負担感や手間という大きな現実的ハードルが横たわっている。【女性20代】などの若年層では「やや登録してみたい」が27.2%と全体(14.3%)より10pt以上高く潜在的な関心が見られるが、「ぜひ登録してみたい」(2.5%)は、まだ少数派である。



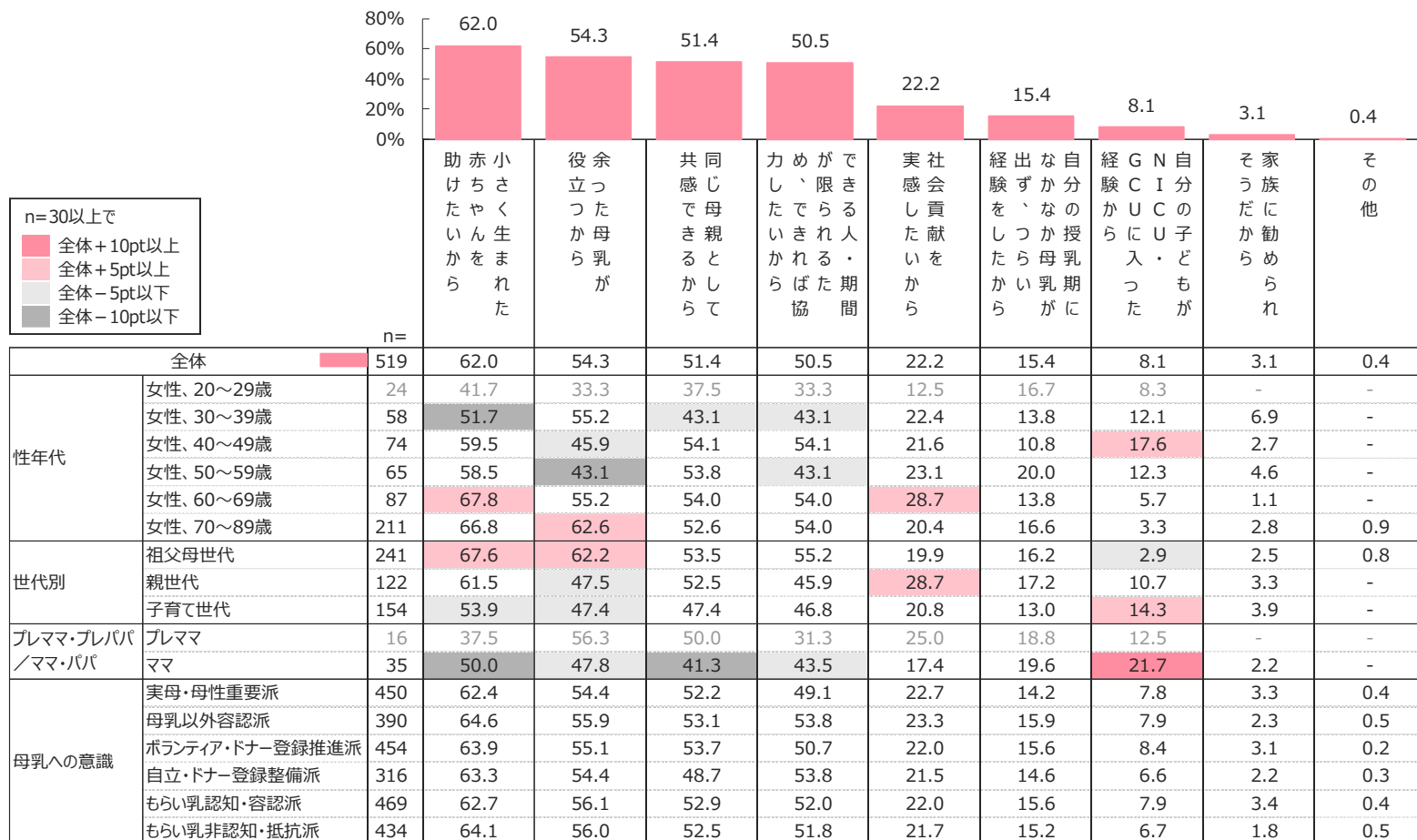
※n=30未満は参考値のため灰色。

※男性は回答対象外。

Q17 現在のご自身の状況や、過去の経験を踏まえて、もし条件が合えば「母乳ドナー」として実際に登録してみたいと思いますか。(SA)

「母乳バンク」 登録の意向理由

- 全体では、「小さく生まれた赤ちゃんを助けたいから」(62.0%)という利他性が高くて、次いで「余った母乳が役立つから」(54.3%)、「同じ母親として共感できるから」(51.4%)も半数を超えている。無理なく貢献できるという合理性や、当事者への共感が登録を後押しする大きな要因となっている。
- 【ママ】においては、「自身の子どもがNICU・GCUに入った経験から」(21.7%)が全体平均(8.1%)の3倍近く、自身の辛い経験を次世代への支援に変えたいという「恩送り」の意識が強く働いている。

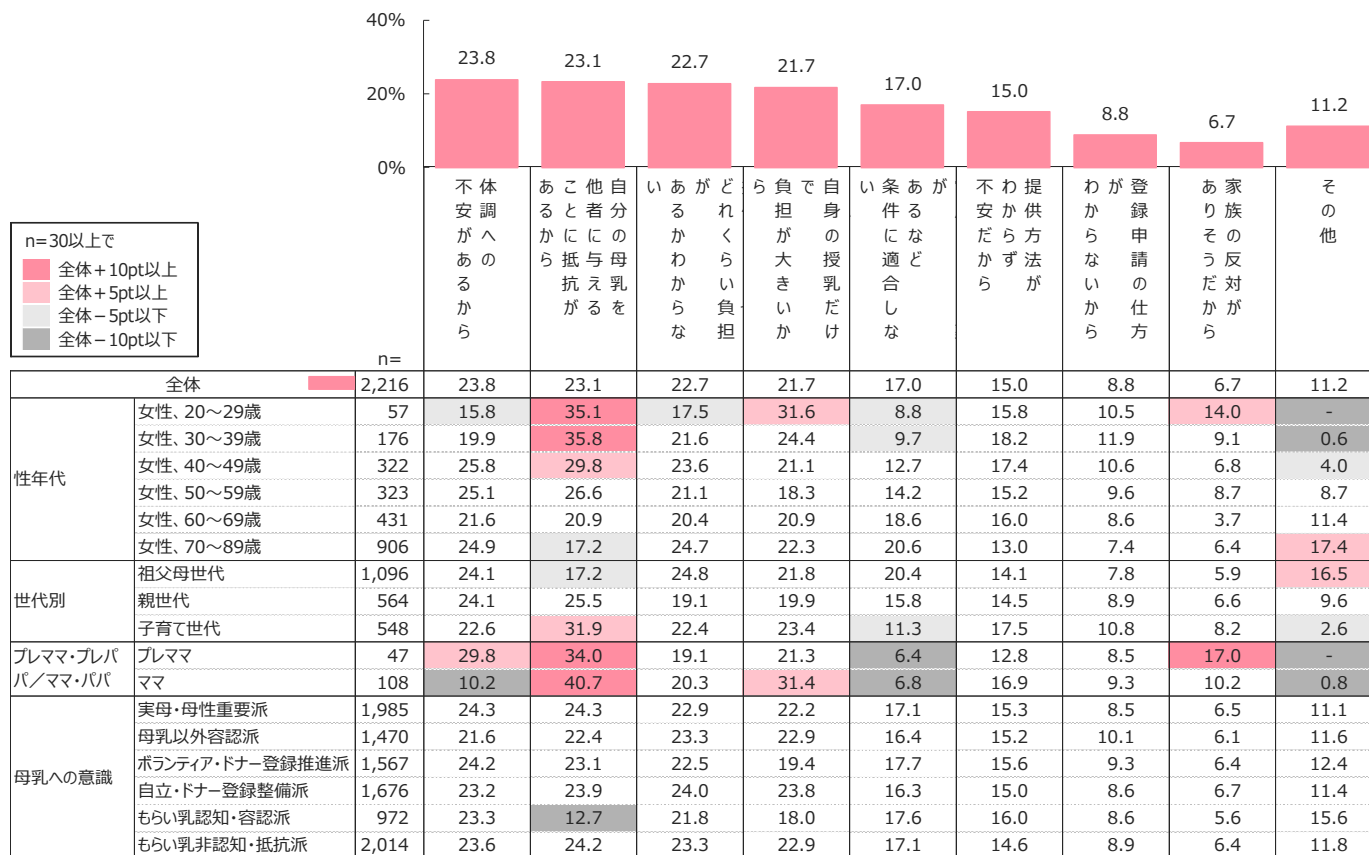


※全体の値を基準に降順並び替え ※男性は回答対象外。

Q18 先ほどの設問で「ぜひ登録してみたい」 / 「やや登録してみたい」と回答されました。その理由をお知らせください。(MA)

「母乳バンク」 登録の非意向理由

- 全体では、「体調への不安があるから」(23.8%)、「自分の母乳を他者に与えることに抵抗があるから」(23.1%)、「提供にあたってどれくらい負担があるかわからないから」(22.7%)がほぼ横並びで上位となり、身体的負担と心理的ハードルの双方が登録を躊躇させていると考えられる。
- ターゲットである【プレママ】を見ると、「自分の母乳を他者に与えることに抵抗があるから」(プレママ34.0%/ママ40.7%)が全体平均を10~17ptも上回り、当事者こそが生理的な抵抗感や戸惑いをもっとも強く抱いている現状がある。また、育児中の【ママ】は「自身の授乳だけで負担が大きいから」(31.4%)も突出して高く、日々の育児に追われる中でドナー活動を行う物理的・精神的な余裕のなさが大きな壁となっている。一方、【プレママ】は「家族の反対がありそうだから」(17.0%)という理由も目立ち、家族の理解の低さが障壁となっている。

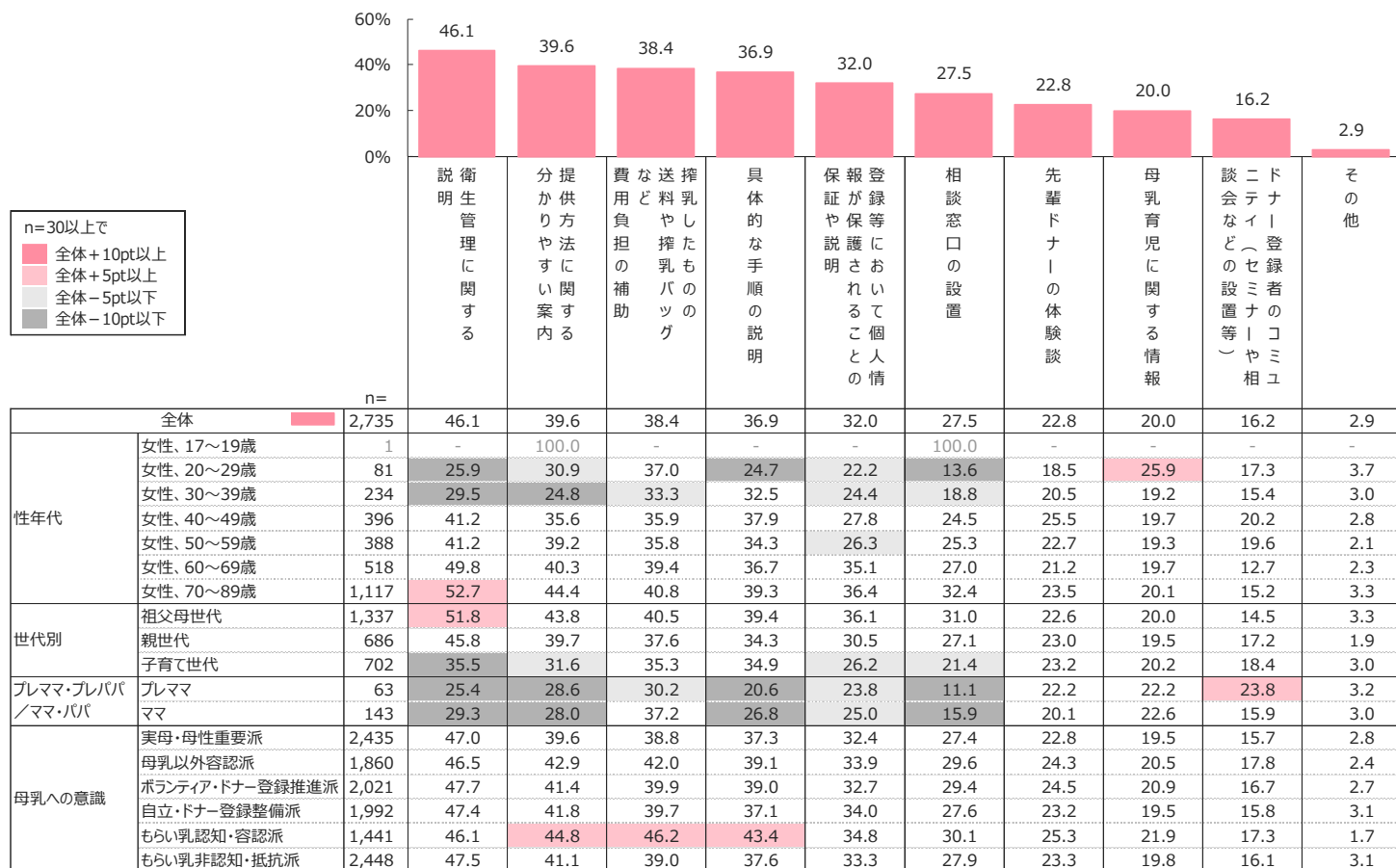


Q19 先ほどの設問で「どちらともいえない」/「あまり登録したくない」/「まったく登録したくない」と回答されました。その理由をお知らせください。(MA)

※全体の値を基準に降順並び替え ※男性は回答対象外。

ママ・プレママに対し、どんな情報・支援が必要か

- 全体では、「衛生管理に関する説明」(46.1%)、「提供方法に関する分かりやすい案内」(39.6%)、「搾乳したものの送料や搾乳バッグなど費用負担の補助」(38.4%)が上位を占め、安全性の担保と金銭的・物理的な負担軽減が基本的な要求事項となっている。
- 【プレママ・プレパパ】を見ると、「衛生管理に関する説明」は25.4%と全体(46.1%)より20pt以上も低く、当事者は制度の堅苦しい説明よりも別の価値を求めていることが示唆される。具体的には、「ドナー登録者のコミュニティ」(23.8%)、「母乳育児に関する情報」(22.2%)が相対的に高く、事務的な手続き支援以上に、活動を通じた「他者とのつながり」や「育児相談」といった情緒的なメリットを重視している。



※n=30未満は参考値のため灰色。

※全体の値を基準に降順並び替え ※男性は回答対象外。

Q20 登録を前向きにするために、どのような情報や支援が必要ですか。(MA)

